

平成 30 年度

総合教育センターの研修・支援・研究業務の推進に関する調査結果

～現場に役立つ教育センターを目指して～



Web 公開用

【目次】

I	実施概要	1
1	調査目的	
2	調査対象	
3	調査期日	
4	調査内容	
5	調査方法	
6	回答数及び回収率	
II	研修・支援・研究業務の推進に関する調査（小中高特）	3
1	回答者に関わる調査	3
2	研修業務推進に関わる調査	4
3	支援業務推進に関わる調査	28
4	研究業務推進に関わる調査	30
5	総合教育センターの研修・支援・研究業務への意見・要望	35
III	研修・支援・研究業務の推進に関する調査（幼稚園等）	36
1	回答者に関わる調査	36
2	研修業務推進に関わる調査	36
3	支援業務推進に関わる調査	42
4	研究業務推進に関わる調査	43
5	総合教育センターの研修・支援・研究業務への意見・要望	49
IV	分析・考察	
1	小・中・高・特別支援学校についての分析・考察	50
2	幼稚園等についての分析・考察	56



## I 実施概要

### 1 調査の目的

平成31年度以降の総合教育センターにおける研修・支援・研究業務の推進に役立てるため、教育現場のニーズを把握する。

### 2 調査の対象

- (1) 市町村立幼稚園等 (52園)
- (2) 岩手県私立幼稚園・認定こども園連合会加盟園 (75園)
- (3) 岩手県社会福祉協議会会員施設・全国保育士会会員所属施設 (380施設)
- (4) 市町村立小・中・義務教育学校 (小：314校、中：158校、義務教育学校1校)
- (5) 県立中学校 (1校)
- (6) 県立高等学校 (64校)
- (7) 市立高等学校 (1校)
- (8) 県立特別支援学校 (15校)
- (9) 国立幼・小・中・特別支援学校 (4校)
- (10) 私立小・中・高等学校・特別支援学校 (16校) 計 1,081 校(園)

### 3 調査期日

平成 30 年 6 月

### 4 調査の内容

- (1) 岩手県立総合教育センターの業務推進に関する調査 (対象：小・中・義務教育学校・高・特支)
  - ア 研修業務推進に関わる調査
    - (ア) 研修講座の活用について (質問 4～質問 6)
    - (イ) 研修内容のニーズについて (質問 7～質問10)
  - イ 支援業務推進に関わる調査
    - (ア) 各研修・相談のニーズについて (質問11～質問12)
  - ウ 研究業務推進に関わる調査
    - (ア) 研究成果物の活用について (質問13～16)
    - (イ) 研究成果物の入手方法について (質問17)
  - エ スタートカリキュラムについて (質問18)
  - オ 総合教育センターの研究内容のニーズについて (質問19)
  - カ 総合教育センターの研修・支援・研究業務への意見・要望 (質問20)
- (2) 岩手県立総合教育センターの業務推進に関する調査 (対象：幼稚園、保育園、認定こども園等)
  - ア 研修業務推進に関わる調査
    - (ア) 研修講座の活用について (質問 3～質問 5)
    - (イ) 研修内容のニーズについて (質問 6～質問 7)
  - イ 支援業務推進に関わる調査
    - (ア) 各研修・相談のニーズについて (質問 8～質問 9)

ウ 研究業務推進に関わる調査

(ア) 研究成果物の活用について (質問10)

(イ) 研究成果物の入手方法について (質問11)

エ 教育体制、教育課程について (質問12～質問19)

オ 総合教育センターの研究内容のニーズについて (質問20)

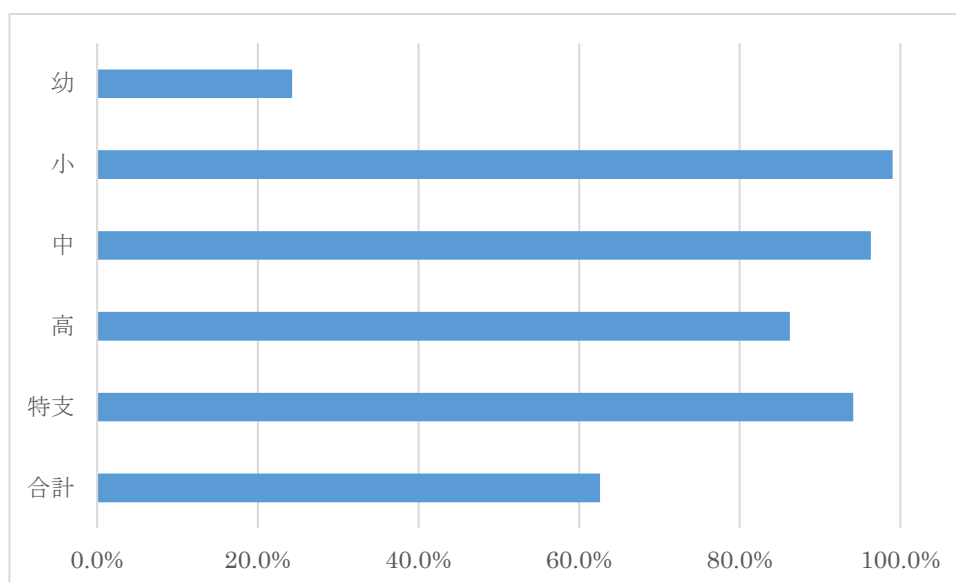
カ 総合教育センターの研修・支援・研究業務への意見・要望 (質問21)

5 調査方法

調査は、岩手教育情報交流ネットを利用して行う。

6 回答数及び回収率 (県内国公立)

校種	対象数	回答数	回収率	参考 (H28 回収率)
幼稚園等	507	123	24.3%	91.1%
小学校・義務教育学校前期	316	313	99.1%	98.8%
中学校・義務教育学校後期	161	157	97.5%	96.9%
高等学校 (定時制、通信制も1校としてカウント)	80	69	86.3%	100%
特別支援学校	17	16	94.1%	100%



(結果)

- ・幼稚園等の回収率が大幅に低くなった。理由として調査対象数を 55 園から、507 園に拡大して調査を行なったためである。H30 年度の調査では、市町村立幼稚園に加え、岩手県私立幼稚園・認定こども園連合会加盟園と岩手県社会福祉協議会会員施設・全国保育士会会員所属施設 452 施設を調査対象として増やした。
- ・高等学校の回収率が大幅に低くなったことも、県立高等学校に加えて、私立高等学校にまで調査対象を拡大したためである。

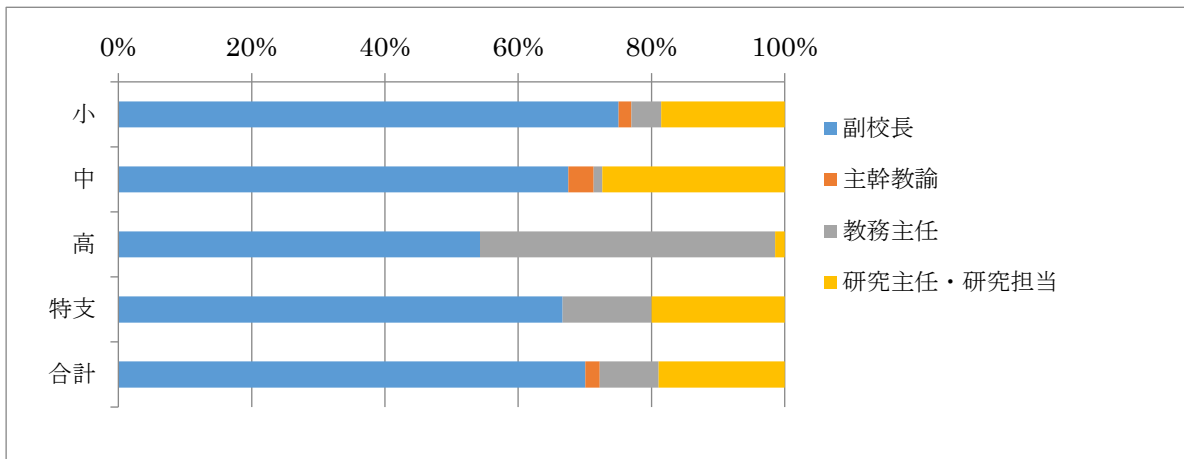
## Ⅱ 研修・支援・研究業務の推進に関する調査（小中高特）

### 1 回答者に関わる調査（質問1・質問3）

【質問1】 あなたの学校の校種を回答してください。  
 【質問3】 回答者の職名（校務分掌）を回答してください。

	小	中	高	特支	合計
副校長	235 (75.1%)	106 (67.5%)	38 (54.3%)	10 (66.7%)	389 (70.1%)
主幹教諭	6 (1.9%)	6 (3.8%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	12 (2.2%)
教務主任	14 (4.5%)	2 (1.3%)	31 (44.3%)	2 (13.3%)	49 (8.8%)
研究主任（研究担当者）	58 (18.5%)	43 (27.4%)	1 (1.4%)	3 (20.0%)	105 (18.9%)

※割合についてはP.59を参照



#### （結果）

- ・ 小学校は副校長の回答が7割近くを占めている。
- ・ 中学校は副校長の他に、研究主任（研究担当）からの回答が3割近くを占めている。
- ・ 高等学校は副校長の他に、教務主任からの回答がほぼ半数を占めている。

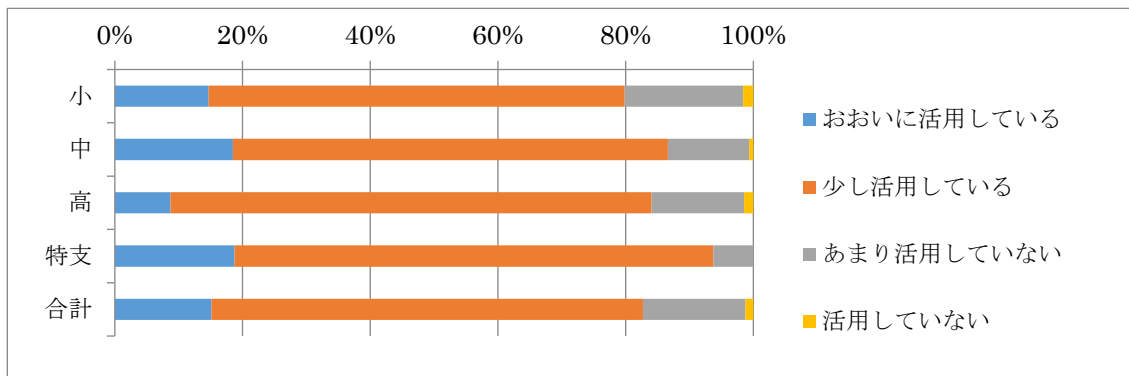
## 2 研修業務推進に関わる調査

### (1) 研修活用状況に関わる調査（質問4）

【質問4】回答者からみて、貴校職員が当センターで研修した内容をどの程度活用していますか。

	小	中	高	特支	合計
おおいに活用している	46 (14.7%)	29 (18.5%)	6 ( 8.7%)	3 (18.8%)	84 (15.1%)
少し活用している	204 (65.2%)	107 (68.2%)	52 (75.4%)	12 (75.0%)	375 (67.6%)
あまり活用していない	58 (18.5%)	20 (12.7%)	10 (14.5%)	1 ( 6.3%)	89 (16.0%)
活用していない	5 ( 1.6%)	1 ( 0.6%)	1 ( 1.4%)	0 ( 0%)	7 ( 1.3%)

※割合については P.59 を参照



#### (結果)

- ・各校種とも研修内容については、「おおいに活用している」「少し活用している」を合わせると約8割になる。
- ・中学校において平成28年度調査より活用率が高くなっている。

#### 〈参考〉平成28年度

	小	中	高	特支	合計
おおいに活用している	51 (15.5%)	11 ( 7.0%)	16 (22.2%)	1 ( 6.7%)	79 (13.8%)
少し活用している	208 (63.2%)	115 (72.8%)	46 (63.9%)	12 (80.0%)	381 (66.4%)
あまり活用していない	65 (19.8%)	30 (19.0%)	10 (13.3%)	2 (13.3%)	107 (18.6%)
活用していない	5 ( 1.5%)	2 ( 1.3%)	0 ( 0%)	0 ( 0%)	7 ( 1.2%)

(2) 活用している研修（質問5）

【質問5】「質問4」で「おおいに活用している」「ある程度活用している」と回答した場合のみお答えください。どのような研修内容を学校で活用していますか。具体的な研修の講座名と内容を箇条書きで記入してください。

ア 小学校

※回答数の多いもの、上位10項目

回答内容	回答数
特別支援教育	62
生徒指導	53
基本研修	52
授業力向上研修	40
新任研修	35
国語	28
道徳	27
教育研究発表会	25
学級経営	14
情報教育	12
養護教諭	12
教育相談	12

イ 中学校

※回答数の多いもの、上位10項目

研修内容	回答数
新任研修	32
数学	30
基本研修	31
特別支援教育	24
生徒指導	20
授業力向上研修	18
教育研究発表会	13
道徳	13
免外	11
教育相談	8

ウ 高等学校

※回答数の多いもの、上位 10 項目

研修内容	回答数
基本研修	37
授業力向上研修	17
新任研修	16
特別支援教育	11
生徒指導	10
教育相談	9
算数・数学	4
社会	3
英語	3
養護教諭	3
学級経営	3
ソーシャルスキル	3

エ 特別支援学校 [自由記述]

※回答数の多いもの、上位 5 項目

研修内容	回答数
特別支援教育	8
W I S C	7
基本研修	4
教育研究発表会	3
生徒指導	3
新任研修	3

(3) 活用していない理由に関わる調査（質問 6）

【質問 6】「質問 4」で「あまり活用していない」「活用していない」と回答した場合のみお答えください。当センターで研修した内容を活用していない理由は何ですか。

※回答数の多いもの上位 5 項目

回答内容	回答数
業務の多忙／他の出張が多い	14
個人の活用に任せてしまっている／学校全体の活用になっていない	9
センターの研修に参加していないため	8
希望する教員が少ない	9
小規模校で職員数が少ないため	5



(4) センターの研修として取り上げてほしい教科・科目に関わる調査（質問7）

【質問7】 貴校の課題を解決するために、総合教育センターの研修として取り上げてほしい教科・科目について以下の項目から選んでください。（複数選択可）

	小学校		中学校		高等学校		特別支援学校		合計	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
国語	59	18.8%	26	16.6%	3	4.3%	3	18.8%	91	16.4%
社会 <small>(地理・歴史、公民含む)</small>	19	6.1%	23	14.6%	24	34.8%	1	6.3%	67	12.1%
算数・数学	109	34.8%	34	21.7%	28	40.6%	2	12.5%	173	31.2%
理科	29	9.3%	25	15.9%	28	40.6%	1	6.3%	83	15.0%
生活	17	5.4%	1	0.6%	0	0.0%	0	0.0%	18	3.2%
音楽	16	5.1%	9	5.7%	4	5.8%	2	12.5%	31	5.6%
図画工作／美術	18	5.8%	14	8.9%	4	5.8%	2	12.5%	38	6.8%
書道	1	0.3%	0	0.0%	2	2.9%	0	0.0%	3	0.5%
家庭／技術・家庭	5	1.6%	19	12.1%	10	14.5%	0	0.0%	34	6.1%
保健体育	19	6.1%	14	8.9%	7	10.1%	3	18.8%	43	7.7%
外国語	0	0.0%	24	15.3%	30	43.5%	2	12.5%	56	10.1%
工業	0	0.0%	0	0.0%	5	7.2%	0	0.0%	5	0.9%
農業	0	0.0%	0	0.0%	3	4.3%	0	0.0%	3	0.5%
商業	0	0.0%	0	0.0%	8	11.6%	0	0.0%	8	1.4%
水産	0	0.0%	0	0.0%	1	1.4%	0	0.0%	1	0.2%
情報	7	2.2%	3	1.9%	15	21.7%	7	43.8%	32	5.8%
福祉	1	0.3%	2	1.3%	1	1.4%	2	12.5%	6	1.1%
特別の教科 道徳	225	71.9%	135	86.0%	2	2.9%	8	50.0%	370	66.7%
小学校英語	198	63.3%	0	0.0%	0	0.0%	2	12.5%	200	36.0%
その他	18	5.8%	14	8.9%	15	21.7%	5	31.3%	52	9.4%

※ 各校種の上位5項目を色づけ

※ 割合についてはP.59を参照

(5) センターの研修として取り上げてほしい研修内容（質問8）

【質問8】「質問7」で選択した教科・科目の研修内容として具体的にどのような内容を取り上げてほしいですか。「その他」を選択している場合には教科・科目の名称もお書きください。

ア 小学校

	回答数	割合	主な回答
国語	59	18.8%	<ul style="list-style-type: none"> <li>・主体的・対話的な学び合いについて（学力向上）</li> <li>・読解力の向上・活用力を高める指導の在り方</li> <li>・単元を貫く「言語力」を高める指導の在り方</li> <li>・「読む」の単元構想の仕方</li> <li>・主体的な学びをつくり出すために、単元指導計画作成の際に留意していくべき事項と、実際の作成手順</li> <li>・複式指導における単元構想、基本的な一単位時間の流れについて</li> <li>・筑波大附属小学校の講師を招いて、説明文や物語文、詩などの指導法を学ぶ講習会</li> </ul>
社会	19	6.1%	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校社会科の授業づくり（各学年における資料活用の工夫について）</li> <li>・新指導要領に盛り込まれている指導内容と指導の手立て</li> <li>・学習問題への取り組み方、45分完結の授業の組み立て方</li> <li>・地域素材教科の視点（特に3・4年生）</li> </ul>
算数・数学	109	34.8%	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「主体的・対話的で深い学び」実現のための授業づくりの在り方</li> <li>・数学的な見方・考え方（論理的思考）を育成するための言語活動の在り方</li> <li>・教材分析の仕方、理解に時間がかかる児童への効果的な教材、問題の提示</li> <li>・思考力・表現力を高める指導の在り方</li> <li>・複式学級における、各教科の指導の仕方について</li> <li>・活用力を高める指導の在り方</li> <li>・統合的に考える能力を伸ばす授業改善について</li> <li>・学習形態とグループ学習との関連</li> <li>・ノート活用とプリント学習の領域別学習法</li> <li>・新領域「データの活用」の授業の工夫</li> <li>・ユニバーサルデザインの視点に沿った指導の形態</li> <li>・中学校とのスムーズな接続に対応した指導</li> </ul>

理科	29	9.3%	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科のねらいに沿ったプログラミング学習のあり方</li> <li>・小学校での授業づくりの具体実験技能のスキルアップ</li> <li>・思考力・判断力・表現力を高める指導力向上</li> <li>・新指導要領に盛り込まれている指導内容と指導の手立て</li> <li>・各学年の実験方法の演習実験技能</li> <li>・思考力を育成する理科授業の進め方</li> <li>・課題解決の道筋を見通す力を育成する理科の授業（自らの研究を構築する力の素地づくり）</li> <li>・理科実験の最新器具を使ったノウハウ</li> </ul>
生活	17	5.4%	<ul style="list-style-type: none"> <li>・これからの生活科の授業づくり</li> <li>・思考力・判断力・表現力を高める指導力の向上</li> <li>・教科の目標、具体的な指導法、評価について</li> <li>・実践事例及び見取り（評価）について</li> <li>・総合的な学習、理科、社会へのつながりを意識した学習展開</li> </ul>
音楽	16	5.1%	<ul style="list-style-type: none"> <li>・伴奏無しでできる歌唱指導</li> <li>・発声の指導法</li> <li>・技能教科等の基本的スキルの向上</li> <li>・基本的な授業の流れ、合唱指導の仕方</li> <li>・リコーダーや鍵盤ハーモニカ等の指導法</li> </ul>
図工	18	5.8%	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実技研修</li> <li>・本時や単元の中で学びを達成するための、子どもたち同士の関わらせ方</li> <li>・主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善の在り方</li> </ul>
書道	1	0.3%	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実技研修</li> <li>・主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善の在り方</li> <li>・新指導要領に沿った授業改善の在り方</li> </ul>
技術	5	1.6%	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本時や単元の中で学びを達成するための、子どもたち同士の関わらせ方</li> <li>・新指導要領に沿った授業改善の在り方</li> <li>・実際の指導法</li> </ul>
家庭	5	1.6%	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実技研修</li> <li>・本時や単元の中で学びを達成するための、子どもたち同士の関わらせ方</li> </ul>
体育	19	6.1%	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体力向上のための校内取組について</li> <li>・基礎体力の向上に関わる体づくり運動</li> <li>・具体的授業実践とその評価について</li> <li>・運動が苦手な児童も楽しめる体育科の指導の運動量を確保した授業の在り方</li> <li>・実際の指導法（体育）実技や指導の仕方</li> </ul>
情報	7	2.2%	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科のねらいに沿ったプログラミング学習の在り方</li> </ul>
福祉	1	0.3%	<ul style="list-style-type: none"> <li>・具体的に活用できるもの（指導例など授業ですぐ使える内容）</li> </ul>

<p>特別の教科 道徳</p>	<p>225</p>	<p>71.9%</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 議論する「道徳」の指導過程と指導方法の工夫</li> <li>・ 指導要録や通信表の記述の仕方</li> <li>・ 個人の変容を見取る評価の在り方について</li> <li>・ 年間指導計画作成のポイント</li> <li>・ 評価のポイント教育活動全体を通じた道徳的価値に対する意識の連続性を大切にされた指導計画の作成</li> <li>・ 関わり合いを通して話し合いを深める授業づくり</li> <li>・ 児童の変容をどのようにして捉え、評価していけば良いか、その手法と観点について</li> <li>・ 「議論する道徳」の効果的な発問の在り方について</li> <li>・ 少人数学級での効果的な話し合いについて</li> <li>・ 「いわての復興教育」との関連について</li> <li>・ 自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、自己の生き方についての考えを深めるための具体的な指導過程及び留意点について（課題、学習活動、教材の活用、評価等）</li> </ul>
<p>小学校外国語</p>	<p>198</p>	<p>63.3%</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 評価の在り方、その手法や観点、基準について</li> <li>・ 通知表や要録への記載の留意点</li> <li>・ 小中連携の視点における英語授業</li> <li>・ 新学習指導要領を踏まえた、高学年の授業の実践や評価について</li> <li>・ 移行期のテキストの活用方法と評価について「We Can! 」と「Hi Friends! 」との併用</li> <li>・ 高学年外国語科の指導方法と評価、中学年外国語指導の進め方</li> <li>・ 書く活動を加えた具体的な指導の在り方</li> <li>・ モジュール学習の効果的な活用について</li> <li>・ 小学校外国語の指導時数のとり方と指導内容の実践事例</li> <li>・ コミュニケーションにおける技能の習得のさせ方</li> <li>・ 日本語と英語の違いに気付かせる授業</li> <li>・ 教員の英語力向上のための研修講座</li> <li>・ 複式指導の方法</li> <li>・ 3・4年生のカリキュラム等指導の在り方</li> <li>・ A L T を活用した授業と H R T 単独で実施する授業</li> <li>・ 英語の苦手な教員でもできる H R T のあり方</li> <li>・ ユニバーサルデザインの視点に沿った指導の形態</li> <li>・ 3、4年 Let' s try を活用した指導の仕方</li> </ul>
<p>その他</p>	<p>18</p>	<p>5.8%</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 各教科等の資質・能力の育成に向けた系統的な指導と評価の在り方について</li> <li>・ 通常学級における特別な支援を要する児童の実際について</li> <li>・ 保護者との連携について</li> <li>・ 複式学級における、各教科の指導の仕方</li> <li>・ 情報モラル学習の指導について</li> <li>・ 筑波大附属小などの先生を招聘しての講義、マイクロティーチング</li> </ul>

			<ul style="list-style-type: none"> <li>・通常学級で支援を必要としている子への授業の中での具体的な対応</li> <li>・複式学級における学習指導方法について</li> <li>・プログラミング的思考の効果的な指導方法について</li> </ul>
--	--	--	--

イ 中学校

	回答数	割合	主な回答
国語	26	16.6%	<ul style="list-style-type: none"> <li>・岩手の授業づくり3つの視点に即した授業実践</li> <li>・免許外教科の担当教員への基本的な授業方法</li> </ul>
社会	23	14.6%	<ul style="list-style-type: none"> <li>・いわての授業づくり3つの視点のポイントについて</li> <li>・社会に興味関心を持つ授業の構築</li> </ul>
算数・数学	68	21.7%	<ul style="list-style-type: none"> <li>・具体的実践事例研修</li> <li>・TT授業に関する研修</li> <li>・学力向上に向けた指導方法、授業改善</li> <li>・生徒の習熟度に応じた授業の進め方</li> </ul>
理科	25	15.9%	<ul style="list-style-type: none"> <li>・板書案やプリント作成の基礎について</li> <li>・課題解決に向けた授業構成の在り方及び実験の組み方</li> <li>・科学的読解力を育てるための授業づくりについて</li> </ul>
音楽	9	5.7%	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実践が進んでいる学校の実践例など</li> <li>・評価規準の作成について（観点別評価項目等）</li> <li>・「主体的・対話的で深い学び」の授業づくり</li> </ul>
美術	14	8.9%	<ul style="list-style-type: none"> <li>・免許外教科の担当教員のための授業に活用できる教材や評価の仕方等</li> <li>・きめ細やかなサポート対象の研修の充実</li> <li>・実践が進んでいる学校の実践例</li> <li>・評価規準の作成について（観点別評価項目等）</li> </ul>
技術	19	12.1%	<ul style="list-style-type: none"> <li>・免許外教科の担当教員のための授業に活用できる教材や評価の仕方等</li> <li>・小学校におけるプログラミング教育および高等学校「情報」との接続をふまえた指導内容・方法について</li> <li>・技術・家庭の実技実践や教材</li> <li>・きめ細やかなサポート対象の研修の充実</li> <li>・各教科の評価規準の作成について（観点別評価項目等）</li> </ul>
家庭	19	12.1%	<ul style="list-style-type: none"> <li>・免許外教科の担当教員のための授業に活用できる教材や評価の仕方等</li> <li>・技術・家庭の実技実践や教材</li> <li>・きめ細やかなサポート対象の研修の充実</li> </ul>
体育	14	8.9%	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体育におけるICTを活用した学習に関する研修</li> <li>・各教科の評価規準の作成について（観点別評価項目等）</li> <li>・「主体的・対話的で深い学び」の授業づくり</li> </ul>

外国語	24	15.3%	<ul style="list-style-type: none"> <li>・活用の仕方学力向上に向けた指導方法、授業改善、コミュニケーション能力を養うための本文活用</li> <li>・いわての授業づくり3つの視点のポイントについて</li> </ul>
情報	3	1.9%	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日々進歩している情報機器等の危険性、最新情報に関わる学校での対応等</li> <li>・中学生に対して、スマホ等のネットの効果的な使い方</li> </ul>
福祉	2	1.3%	<ul style="list-style-type: none"> <li>・障がい福祉サービスについて</li> </ul>
特別の教科 道徳	135	86.0%	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「考え、議論する道徳」の授業づくり</li> <li>・教科化に関わるカリキュラム・マネジメント</li> <li>・道徳の教科化を不安視する保護者への対応</li> <li>・評価の在り方、通知表への記載の仕方など、現場に持ち帰り、学校独自の要素を加え、すぐに活用できる内容のもの</li> <li>・具体的な発問例や話し合い・深め合いの導き方、評価の仕方とその生かし方</li> <li>・道徳の多様な指導方法についての資料</li> <li>・問題解決的な学習、「考え、議論する道徳」を踏まえた授業展開の仕方についてのワークシートの例</li> </ul>
その他	14	8.9%	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各教科における言語活動を通して学力向上の成果をあげた指導例、授業改善例</li> <li>・教育機器としてのパソコンの使い方について</li> <li>・校種間連携について</li> <li>・キャリア教育について（キャリアパスポートの運用など）</li> <li>・QUやNRTの分析・活用の仕方</li> <li>・ユニバーサルデザインの視点の取り入れ方</li> <li>・小中高接続の視点からできる授業改善</li> <li>・「生活」「作業」「自立」の違いについて</li> </ul>

ウ 高等学校

	回答数	割合	主な回答
国語	3	4.3%	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新学習指導要領に対応した授業方法と受験指導</li> <li>・岩手県の生徒が抱える学力問題について（弱点分野とその原因について）</li> <li>・新入試をふまえ、思考力、判断力、表現力をつける指導の在り方</li> <li>・小論文指導の授業への展開例、他教科と共同して行う小論文指導の方法（記述力、表現力の向上）</li> <li>・大学入学共通テスト（新テスト）に関わる研修会</li> </ul>
社会	24	34.8%	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新学習指導要領に対応した授業方法と受験指導</li> <li>・岩手県の生徒が抱える学力問題について（弱点分野とその原因について）</li> <li>・主体的・対話的で深い学びのための授業改善、観点別評価を意識した授業構想や試験の作成</li> <li>・主権者教育など</li> <li>・大学入学共通テスト（新テスト）に関わる研修会</li> </ul>
算数・数学	28	40.6%	<ul style="list-style-type: none"> <li>・理数系科目が苦手な生徒への、大学受験を視野に入れた教科</li> <li>・難関大入試や数学五輪のエレガントな解き方</li> <li>・数学生徒の興味や好奇心を刺激する授業の実践例</li> <li>・空間図形等、イメージしにくい問題に対する指導法</li> <li>・新入試をふまえ、思考力、判断力、表現力をつける指導の在り方</li> <li>・分数、式変形でつまずきのある高校生への効果的な指導法</li> </ul>
理科	28	40.6%	<ul style="list-style-type: none"> <li>・理数系科目が苦手な生徒への、大学受験を視野に入れた教科・指導方法</li> <li>・主体的・対話的で深い学びのための授業改善、観点別評価を意識した授業構想や試験の作成など</li> <li>・先生の指導と生徒のまなびのギャップを知る手段</li> <li>・大学入学共通テスト（新テスト）に関わる研修会</li> </ul>
音楽	4	5.8%	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アクティブラーニングの実践</li> <li>・観点別評価について</li> <li>・小・中・高の連携</li> </ul>
美術	4	5.8%	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アクティブラーニングの実践</li> <li>・観点別評価について</li> <li>・他県や他校の実践例</li> <li>・小・中・高の連携</li> </ul>
書道	2	2.9%	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アクティブラーニングの実践</li> <li>・観点別評価について</li> <li>・他県や他校の実践例</li> <li>・小・中・高の連携</li> </ul>

技術	10	11.1%	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アクティブラーニングの実践</li> <li>・観点別評価について</li> <li>・安全・衛生指導、進度差の出ないようにする工夫</li> <li>・主に実技教科での実習・実験の進め方など</li> </ul>
家庭	10	11.1%	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アクティブラーニングの実践</li> <li>・観点別評価について</li> <li>・主に実技教科での実習・実験の進め方など</li> <li>・食物アレルギー対応、指導法</li> </ul>
体育	7	10.1%	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アクティブラーニングの実践</li> <li>・観点別評価について</li> </ul>
外国語	30	43.5%	<ul style="list-style-type: none"> <li>・外国語でディベートができるまでの指導法</li> <li>・観点別評価について</li> <li>・新大学入試テストに向けた対策について</li> <li>・外国人やLGBTなどと共生する社会に向けた指導新学習指導要領</li> <li>・新大学入試制度に対応した教科指導法スピーチやディスカッションなどのテスト方法や評価</li> <li>・アクティブラーニングの手法</li> <li>・大学入学共通テスト（新テスト）に関わる研修会</li> <li>・学校全体で授業の枠を越えて、横断的に取り組める外国語活動の一案、または実践例の紹介</li> </ul>
工業	5	7.2%	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ドローン利用又は資格取得</li> <li>・最先端技術の工作機械（レーザー加工機等）や自校で活用できる制御装置の研修等</li> <li>・工業各分野の先端技術に関する研修</li> </ul>
農業	3	4.3%	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今主流の栽培技術（教科書より詳しい原理、理論、研究成果など）</li> <li>・農家視察（植物のバイテクなど、生物活用、グリーンライフ）</li> <li>・ドローン利用又は資格取得</li> <li>・科目「農業情報処理」研修</li> <li>・最新の職業教育、実学についての情報</li> </ul>
商業	8	11.6%	<ul style="list-style-type: none"> <li>・マクロ・java・アンドロイド</li> <li>・小学校でプログラミング教育が導入されることに伴い、高等学校のプログラミング教育に求められるもの</li> <li>・マイクロコンピュータ等の制御実習に関する内容</li> <li>・プログラムやVBAの研修</li> <li>・プログラミング（iPhoneアプリの開発等）</li> <li>・授業の作り方、ICTの使い方</li> <li>・ワード・エクセルの扱い方</li> <li>・ICTの活用法アクティブラーニングについて</li> <li>・観点別評価の付け方の研修</li> <li>・授業力向上のための研修</li> <li>・最新の職業教育、実学についての情報</li> </ul>



水産	1	1.4%	・新学習指導要領に則った指導内容及び方法
情報	15	21.7%	・データ収集や採点業務を支援するシステム（マクロ）等の活用について ・アクティブラーニングの実践 ・観点別評価について ・電子国土WEB利用方法 ・LINEなどの対応 ・情報モラル（初心者にも理解しやすい内容） ・専門外の教員が担当する場合の具体的な指導法
福祉	1	1.4%	・発達障がいを抱えている支援の必要な生徒への理解がより深化する研修
特別の教科 道徳	2	2.9%	・新教育課程を踏まえた指導内容
その他	15	21.7%	・いじめ問題 ・2年目研修、3年目研修で、動機採用者とのグループワークではなく、1年上、2年上と近い採用の先輩の経験、体験の講話など同期との悩みの共有を解決するような研修内容

## エ 特別支援学校

	回答数	割合	主な回答
国語	3	18.8%	・授業づくりに生かせる内容 ・ユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業づくり ・ICT機器を効果的に活用した指導について
社会	1	6.3%	・授業づくりに生かせる内容 ・ユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業づくり ・ICT機器を効果的に活用した指導について
算数・数学	2	12.5%	・授業づくりに生かせる内容 ・ユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業づくり
理科	1	6.3%	・授業づくりに生かせる内容 ・ユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業づくり
音楽	2	12.5%	・器楽、創作、歌唱、鑑賞の指導について
図工	2	12.5%	・支援を必要とする児童生徒が取り組める授業づくり ・知的障がい教育における具体的な支援方法
保健体育	3	18.8%	・知的障がい教育における具体的な支援方法
外国語	2	12.5%	・授業づくりに生かせる内容 ・ユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業づくり
情報	7	43.8%	・特別支援教育におけるタブレットPC活用 ・生活を豊かにするための正しい情報機器の取扱について
福祉	2	12.5%	・福祉に関すること
特別の教科 道徳	8	50.0%	・知的障がいのある児童生徒への問題解決的な学習を取り入れた「特別の教科である道徳」の実際について
小学校英語	2	12.5%	・授業作りに生かせる内容

			<ul style="list-style-type: none"> <li>・ユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業づくり</li> <li>・特別支援学校で学ぶ準ずる教育を受けている児童への効果的な英語教育について</li> </ul>
その他	5	31.3%	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童生徒が主体的に取り組む生活単元学習の指導の工夫</li> <li>・各教科と関連させた生活単元学習の具体的内容について</li> <li>・作業学習で制作する商品の工夫について</li> <li>・能力差のある集団での作業学習の進め方の工夫について</li> </ul>

(6) センターの研修として取り上げて欲しい領域等に関わる調査（質問9）

【質問9】貴校の課題を解決するために、総合教育センターの研修内容として取り上げてほしい領域等について以下の項目から選んでください。（複数選択可）

	小学校		中学校		高等学校		特別支援学校		合計	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
道徳教育	54	17.3%	42	26.8%	4	5.8%	2	12.5%	102	18.4%
特別活動	12	3.8%	10	6.4%	1	1.4%	1	6.3%	24	4.3%
総合的な学習の時間	11	3.5%	14	8.9%	16	23.2%	1	6.3%	42	7.6%
小学校外国語活動	54	17.3%	0	0.0%	0	0.0%	2	12.5%	56	10.1%
キャリア教育	12	3.8%	16	10.2%	13	18.8%	4	25.0%	45	8.1%
特別支援教育	101	32.3%	57	36.3%	16	23.2%	10	62.5%	184	33.2%
自立活動	11	3.5%	6	3.8%	2	2.9%	8	50.0%	27	4.9%
国際理解教育	1	0.3%	2	1.3%	3	4.3%	0	0.0%	6	1.1%
環境教育	0	0.0%	2	1.3%	2	2.9%	0	0.0%	4	0.7%
ボランティア教育	0	0.0%	7	4.5%	2	2.9%	0	0.0%	9	1.6%
情報教育	29	9.3%	28	17.8%	8	11.6%	4	25.0%	69	12.4%
復興教育	16	5.1%	19	12.1%	3	4.3%	0	0.0%	38	6.8%
防災教育	39	12.5%	15	9.6%	4	5.8%	2	12.5%	60	10.8%
読書指導	5	1.6%	5	3.2%	3	4.3%	0	0.0%	13	2.3%
健康教育	6	1.9%	2	1.3%	1	1.4%	0	0.0%	9	1.6%
学校安全教育	9	2.9%	6	3.8%	0	0.0%	1	6.3%	16	2.9%
伝統文化教育	1	0.3%	3	1.9%	2	2.9%	0	0.0%	6	1.1%
消費者教育	1	0.3%	0	0.0%	1	1.4%	1	6.3%	3	0.5%
小規模・複式指導	69	22.0%	4	2.5%	0	0.0%	0	0.0%	73	13.2%
学校経営	7	2.2%	4	2.5%	3	4.3%	0	0.0%	14	2.5%
学級・学年経営	31	9.9%	22	14.0%	5	7.2%	1	6.3%	59	10.6%
生徒指導	24	7.7%	15	9.6%	6	8.7%	1	6.3%	46	8.3%
教育相談	25	8.0%	32	20.4%	19	27.5%	5	31.3%	81	14.6%
教育法規	0	0.0%	1	0.6%	5	7.2%	0	0.0%	6	1.1%
校内研修	7	2.2%	8	5.1%	1	1.4%	1	6.3%	17	3.1%
校内研究	9	2.9%	8	5.1%	1	1.4%	4	25.0%	22	4.0%
カリキュラム・マネジメント	34	10.9%	25	15.9%	13	18.8%	3	18.8%	75	13.5%
主権者教育	0	0.0%	2	1.3%	8	11.6%	0	0.0%	10	1.8%
プログラミング教育	95	30.4%	9	5.7%	4	5.8%	2	12.5%	110	19.8%
その他	8	2.6%	8	5.1%	18	26.1%	1	6.3%	35	6.3%

※ 各校種の上位5項目を色づけ

※ 割合についてはP.59を参照

(7) その他の項目に関わる調査（質問 10）

【質問 10】「質問 9」で選択した領域の研修内容として具体的にどのような内容を取り上げてほしいですか。「その他」を選択している場合には教科・科目の名称もお書きください。

ア 小学校

	回答数	割合	主な回答
道徳教育	54	17.3%	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 特別の教科道徳との関連で、評価の在り方等について</li> <li>・ 道徳の時間と道徳の時間以外の道徳教育との関連</li> <li>・ コミュニケーションスキルを上げる取組と言語で伝え合うコミュニケーションスキルの向上</li> <li>・ 全体計画、年間指導計画の作成</li> <li>・ 「学校教育活動全体を通して行う道徳教育の要である道徳科」のとらえ方（道徳科別業作成に係る講座）</li> <li>・ 社会に開かれた教育課程という観点から、地域、保護者と連携した道徳教育</li> </ul>
特別活動	12	3.8%	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 各領域、特別活動の資質・能力の育成に向けた系統的な指導と評価の在り方について</li> <li>・ 児童生徒や学校、地域の実態や特色を生かした特別活動の実践</li> <li>・ 特別活動で学級活動として話し合い（対話）の在り方</li> <li>・ 集団や社会の形成者としての見方・考え方を働かせた取組の実際</li> </ul>
総合的な学習の時間	11	3.5%	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 各領域、総合的な学習の時間の資質・能力の育成に向けた系統的な指導と評価の在り方について</li> <li>・ 学校行事と総合的な学習の時間の扱いについて、他校の実践</li> <li>・ 他教科との横断的カリキュラムと発達段階を踏まえた横断的カリキュラムの編成と評価の仕方</li> <li>・ 複式学級でのカリキュラム編成と評価の仕方地域の実態に合わせた指導計画の作成と実践例</li> </ul>
小学校外国語活動	54	17.3%	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「書くこと」の取り入れ方</li> <li>・ 新教材の実践の具体</li> <li>・ 小学校外国語活動と外国語科の指導について</li> <li>・ 全学年の段階的・系統的な外国語活動の在り方</li> <li>・ 年間計画、ALTと連携した授業の進め方</li> </ul>
キャリア教育	12	3.8%	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 各領域、キャリア教育の資質・能力の育成に向けた系統的な指導と評価の在り方について</li> <li>・ キャリア教育の視点を踏まえた各教科の授業の実践について</li> <li>・ 現在の活動にキャリア教育の要素の組み入れ方</li> </ul>

特別支援教育	101	32.3%	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 小学校通常の学級における特別な教育的支援を必要とする児童への効果的な支援の在り方</li> <li>・ 特別支援を要する児童を抱えた学級づくり、学習指導、学年体制、学校体制</li> <li>・ LD、ADHDの子どもに適した支援・教材の工夫</li> <li>・ ソーシャルスキルに関する講座</li> <li>・ 指導者同士、保護者との連携の在り方</li> <li>・ 通常学級における特別な支援を要する児童にかかるインクルーシブ教育システムについて</li> <li>・ 就学支援の進め方（保護者、児童との関わり方）</li> <li>・ 愛着障害の指導</li> <li>・ 心理検査（WISC-IV）を生かした支援の在り方</li> </ul>
自立活動	11	3.5%	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 概要について</li> <li>・ 障害に応じた活動の手立て</li> </ul>
国際理解教育	1	0.3%	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地域に根差した国際理解教育</li> </ul>
情報教育	29	9.3%	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 発達段階に応じた情報モラル教育について</li> <li>・ タブレットを使った授業の進め方</li> <li>・ 巻き込まれやすい犯罪とその防止法</li> <li>・ 情報メディアと子どもたちの関わり方、関わせ方について、家庭や地域で取り組んでいることの実践例</li> </ul>
復興教育	16	5.1%	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 復興教育としてのカリキュラムマネジメント</li> <li>・ 内陸部の学校の取組</li> <li>・ 震災後7年を経過した今後の復興教育の在り方</li> <li>・ 風化させない取り組みの実践例</li> <li>・ 防災（復興）教育の具体的な学習内容や教材開発の演習</li> </ul>
防災教育	39	12.5%	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学校の実態に応じた防災教育に係る教育課程の編成</li> <li>・ 「いきる・かかわる・そなえる」の活用法</li> <li>・ 火山の噴火時の避難等マニュアルの作成</li> <li>・ 保護者や地域を巻き込んだ防災訓練の進め方について</li> <li>・ 複数教科の関連、小中連携、地域連携、過去と未来などの時間軸での関連の仕方</li> <li>・ 発達段階に応じた授業（火災、地震、津波、大雨、洪水）</li> </ul>
読書指導	5	1.6%	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 子どもの読書意欲を高める図書館教育について</li> <li>・ 児童の読書活動の推進のための手立てについて</li> <li>・ 授業における新聞の効果的な活用について</li> </ul>
健康教育	6	1.9%	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 医師を講師にした感染症や救急処置の講話</li> <li>・ 睡眠（育眠）について</li> <li>・ ゲーム脳について</li> <li>・ 肥満解消について</li> <li>・ 低～中学年に向けた乳歯のう歯予防のための効果的な指導</li> </ul>
学校安全	9	2.9%	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 安全な登下校、自然災害から身を守ること、不審者から身を守ることなど安全確保についての学習</li> <li>・ 事例や事案対応へのフローチャート等</li> <li>・ 地域との連携の具体的な取り組み実践等</li> </ul>

伝統文化教育	1	0.3%	・運営、指導、外部講師の招聘について
消費者教育	1	0.3%	・社会が多様化する中で、「自ら考え、自ら行動する」という、自立する消費者を育成するための学習活動の在り方
小規模・複式指導	69	22.0%	<ul style="list-style-type: none"> <li>・複式学級における、領域等の指導の仕方について</li> <li>・小学複式・国語における読解や言語活動の具体的な指導法</li> <li>・複式の場合の道徳や外国語指導の年間計画の立て方や指導法</li> <li>・低中高学年に応じた、授業の「わたり」の具体的な進め方について</li> <li>・初めて複式指導を行う教師への入門的な技術</li> <li>・2・3年のように教科が違う（生活科と社会科、理科）場合の指導の仕方</li> <li>・4・5年のように、家庭科の「ある・なし」の時の教科の組み方や指導の仕方</li> <li>・複式指導における「見通しの持たせ方」個人差に応じた指導法</li> <li>・ICTを活用した新しい複式指導の在り方について</li> </ul>
学校経営	7	2.2%	<ul style="list-style-type: none"> <li>・管理職の資質向上の研修</li> <li>・学校経営マネジメント（人材育成や組織力の強化など）</li> </ul>
学級・学年経営	31	9.9%	<ul style="list-style-type: none"> <li>・資質・能力を高めるための教科指導を支える経営の在り方</li> <li>・年間を見通した学級・学年経営</li> <li>・学力向上やいじめ防止等</li> <li>・生徒指導の三機能を生かした学級経営</li> <li>・Q-Uを用いた学級経営</li> <li>・ユニバーサルデザインを基盤とした学年・学級経営</li> <li>・特別な支援を要する児童が在籍する通常学級の経営の在り方について</li> <li>・教育活動の基盤となる学級経営の進め方</li> <li>・児童一人一人が自己有用感をもち、輝く経営の在り方</li> <li>・班作り、当番活動、係活動等の目的と方法</li> </ul>
生徒指導	24	7.7%	<ul style="list-style-type: none"> <li>・未然防止の視点に立った生徒指導を進め方</li> <li>・問題行動を起こしやすい児童への指導の仕方</li> <li>・いじめ防止・不登校の児童への組織としての対応の具体例</li> </ul>
教育相談	25	8.0%	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学級に馴染めない児童への支援と学校体制</li> <li>・問題をもつ児童「及び保護者への対応（愛着障害、保護者自身の精神疾患傾向、ネグレクト、貧困などの不適切な養育に対する対応、場面化緘黙や反社会的傾向をもつ児童への支援）</li> <li>・教育相談スキル</li> <li>・PTSDの症状が見られる児童及び保護者への接し方</li> </ul>
校内研修	7	2.2%	・小規模校の研修を活性化させるための工夫
校内研究	9	2.9%	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研究主題、主題設定の理由、研究仮説の設定の仕方の基礎</li> <li>・研究推進の在り方</li> <li>・アクションリサーチのような個別課題での研究の進め方</li> </ul>

カリキュラム・マネジメント	34	10.9%	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校の特徴を生かした教育課程の編成に向けての事例</li> <li>・社会に開かれた教育課程編成におけるカリキュラム・マネジメント</li> <li>・目指す資質・能力を具現化するための計画・実践の具体について</li> </ul>
プログラミング教育	95	30.4%	<ul style="list-style-type: none"> <li>・算数、理科、総合的な学習の時間に位置づけた具体的な指導法</li> <li>・ソフトの導入の仕方</li> <li>・コンピューター環境の整備と環境に応じた指導法</li> <li>・プログラミング教育の概論と指導法、その考え方の学校の教育活動への取り入れ方</li> <li>・校内での研修の持ち方</li> <li>・系統性・発達性に応じた指導、即実践に生かせる指導の演習</li> </ul>
その他	8	2.6%	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職員会議をパソコンで行う運営の仕方について</li> <li>・教師自身のアンガーマネジメント</li> <li>・PC研修（特に「エクセル」のマクロ機能について）</li> <li>・人権教育</li> </ul>

## イ 中学校

	回答数	割合	主な回答
道徳教育	42	26.8%	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「特別の教科 道徳」における実際の授業と学校の教育課程における道徳との関連性・評価の在り方</li> <li>・道徳の授業を核とした学校教育全般で育てる道徳教育</li> </ul>
特別活動	10	6.4%	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「何のために」「どんな力をつけるために」といった基本的なことを捉えた学級経営や特別活動（特に学級活動）</li> </ul>
総合的な学習の時間	14	8.9%	<ul style="list-style-type: none"> <li>・総合的な学習の中で地域の良さを学ばせるカリキュラム（地域の歴史を学ぶのではなく、地域に住みたくなる良さを感ずる内容）</li> </ul>
キャリア教育	16	10.2%	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「キャリア教育の手引き」等の資料を活用した校内研修の手法</li> <li>・生徒の社会性とコミュニケーション力を高める、ソーシャルスキルトレーニングなどの方法や、成長段階に合わせた計画的な進め方</li> </ul>
特別支援教育	57	36.3%	<ul style="list-style-type: none"> <li>・通常の学級に在籍する特別な支援を要する子への手だて</li> <li>・発達障害が疑われる生徒への初期対応</li> <li>・特別支援の「視点」とケースごとの実践</li> <li>・カウンセリングのスキルアップについて</li> <li>・個別の指導計画、個別の教育支援計画の作成と活用の在り方</li> <li>・WISC等の知能検査の検査方法</li> <li>・中高間での連携の在り方</li> <li>・支援を必要とする生徒達へのより良い対応の仕方と保護者</li> </ul>

			<p>への説明の仕方（言葉の選び方）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・関係機関の紹介や進路の実態</li> <li>・自立活動の実践例</li> <li>・インクルーシブ教育システムについて</li> <li>・LDの特性や、自立活動の進め方について</li> <li>・通級指導が必要と考えられる生徒の指導の実際（通級指導ができない場合、具体的にどのような支援ができるか）</li> </ul>
自立活動	6	3.8%	<ul style="list-style-type: none"> <li>・肢体不自由、難聴、虚弱の生徒の自立支援、進路選択について</li> <li>・障がい別に特化した内容</li> <li>・自立活動の進め方について</li> </ul>
国際理解教育	2	1.3%	<ul style="list-style-type: none"> <li>・英語圏以外（特に中国や東南アジア）の国々への理解の進め方</li> </ul>
環境教育	2	1.3%	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の関心を高められる学習方法、内容（温暖化対策、ゴミ問題など）</li> </ul>
ボランティア教育	7	4.5%	<ul style="list-style-type: none"> <li>・活動と生徒の育ちをつなげるポイント</li> <li>・海外でのボランティアの活動内容などから、ボランティアに対する意識や内容、取り組み方の工夫など</li> <li>・ボランティア教育の職員間の体系づくりや進め方についての講座</li> </ul>
情報教育	28	17.8%	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各学校ですぐに使える情報モラル教育の指導法講座</li> <li>・情報モラルに関する、生徒会や家庭におけるルールづくり</li> <li>・ネットパトロール等</li> <li>・情報モラルだけでなく、情報リテラシーに関する指導</li> <li>・ICT教育について</li> </ul>
復興教育	19	12.1%	<ul style="list-style-type: none"> <li>・復興、防災教育の実際（授業展開）</li> <li>・未経験者が多くなるこれからの復興教育の方向性や視点について</li> <li>・内陸の生徒に合った復興教育</li> </ul>
防災教育	15	9.6%	<ul style="list-style-type: none"> <li>・復興、防災教育の実際（授業展開）</li> <li>・復興教育のうち「そなえる」（防災、減災）について</li> <li>・他校の防災教育の事例</li> <li>・避難訓練や防火訓練等、法的根拠や実践上の留意点</li> </ul>
読書指導	5	3.2%	<ul style="list-style-type: none"> <li>・読書指導</li> <li>・図書館の運営、図書館の効果的な活用法（司書免許がない教員を対象）</li> </ul>
健康教育	2	1.3%	<ul style="list-style-type: none"> <li>・情報メディアとの関わり、使い方について</li> </ul>
学校安全	6	3.8%	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校安全教育については、どのような視点を持つべきか、対応の仕方</li> </ul>
伝統文化教育	3	1.9%	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育課程の中に位置づけられる際、担当者の負担過重にならない工夫の仕方</li> <li>・地域との連携のあり方</li> <li>・地域の特性を生かした指導の在り方</li> </ul>



小規模・複式指導	4	2.5%	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小規模校での効果的な学習指導方法</li> <li>・複式指導の実際（音楽、体育）</li> <li>・小規模・複式指導の具体的な取り組み方</li> </ul>
学校経営	4	2.5%	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会のニーズにあった経営について</li> </ul>
学級・学年経営	22	14.0%	<ul style="list-style-type: none"> <li>・Q UやN R Tの分析・活用の具体的・効果的な方法</li> <li>・新任の学年主任研修会</li> <li>・学年主任の基本的な役割やベースのスキル講習</li> </ul>
生徒指導	15	9.6%	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の心情を汲み取り、理解、そして対応 ソーシャルスキルトレーニング</li> <li>・生徒指導の三機能を生かした学級づくりと授業づくり</li> </ul>
教育相談	32	20.4%	<ul style="list-style-type: none"> <li>・傾聴のトレーニング、アンガーマネジメント</li> <li>・発達障がい生徒、通級生徒への理解、対応</li> <li>・悩みを引き出せる教育相談の在り方</li> <li>・不登校や別室登校の生徒への対応、関係機関との連携の在り方、家庭への支援</li> <li>・子どものメンタルヘルス、カウンセリング</li> <li>・校内体制について</li> <li>・いじめ問題、学校不適應への対応</li> </ul>
教育法規	1	0.6%	<ul style="list-style-type: none"> <li>・法規全般</li> </ul>
校内研修	8	5.1%	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の人間関係の構築のための校内研究</li> <li>・コンプライアンスに係る職場研修の進め方</li> <li>・校内研修の例や実践などの紹介、交流</li> </ul>
校内研究	8	5.1%	<ul style="list-style-type: none"> <li>・校内研究の進め方の実際</li> </ul>
カリキュラム・マネジメント	25	15.9%	<ul style="list-style-type: none"> <li>・カリキュラム・マネジメントの視点や実践例等</li> <li>・社会に開かれた教育課程の進め方（管理職対象）</li> <li>・カリキュラム・マネジメントにおける、教科等間の内容事項についての、「相互の関連付け」「横断を図る手だて」「体制を整える上での留意点や具体例」</li> </ul>
主権者教育	2	1.3%	<ul style="list-style-type: none"> <li>・成人法の成立により、学校教育の中で求められる内容</li> </ul>
プログラミング教育	9	5.7%	<ul style="list-style-type: none"> <li>・プログラミング教育の基礎的事項について</li> </ul>
その他	8	5.1%	<ul style="list-style-type: none"> <li>・統計学について</li> <li>・I C Tの積極的な活用</li> <li>・通知表等のソフト作成の基本講座</li> </ul>

## ウ 高等学校

	回答数	割合	主な回答
道徳教育	4	5.8%	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学校生活全体を通じた道徳教育の在り方</li> <li>・ 高校における道徳教育の推進について</li> </ul>
特別活動	1	1.4%	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学級活動</li> </ul>
総合的な学習の時間	16	23.2%	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 新学習指導要領の「総合的な探究の時間」をより有意義なものへとつなげられるような内容（新テスト対策）</li> <li>・ 教科の枠を超えた横断的な授業内容</li> <li>・ 3年間を見通した計画と、地域との関わり方</li> <li>・ 「探求活動」の取り組み方</li> <li>・ 思考力・判断力・表現力を高める探求活動</li> <li>・ 総合学習の実践事例の分析と、各校への応用の可能性について</li> </ul>
キャリア教育	13	18.8%	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 職業観の育成、進路指導の在り方（進路未定で卒業する生徒もいるので）</li> <li>・ 労働法規</li> <li>・ 実用的な Excel データを例に、活用及び応用法の研修</li> <li>・ 担任としての進路指導の進め方について</li> <li>・ 教員の企業見学</li> <li>・ 現場視察等（企業のニーズや実際の作業内容、労働環境などの実情を見聞きする）</li> </ul>
特別支援教育	16	23.2%	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 人や保護者が困り感を感じていない時の指導法</li> <li>・ グレーゾーンの生徒に対する指導法</li> <li>・ 普通学校における支援を必要とする生徒への対応</li> <li>・ 支援が必要とされる生徒への具体的対応と、クラス運営の有り方</li> <li>・ 支援学校以外での特別支援のケースをシェアできる機会とその対応の仕方をフォローしてもらえる研修</li> <li>・ 個別対応と集団対応の概要や実践研修</li> </ul>
自立活動	2	2.9%	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 生徒の自立（自律）を促す働きかけについて</li> </ul>
国際理解教育	3	4.3%	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 欧米だけでなく、様々な地域についての国際理解教育</li> </ul>
環境教育	2	2.9%	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 各教科における地球環境との関連性を導き、環境保護への意識させ方について</li> </ul>
ボランティア教育	2	2.9%	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 民間の経営者の話、組織論等</li> </ul>
情報教育	8	11.6%	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ICT機器、タブレットPC等の活用に係る研修</li> <li>・ 電子教科書に係る研修スマホ携帯の現状</li> <li>・ SNSなどによる情報モラルについて、年数回に分けて定期的にチェックできるような校内研修の実施方法</li> <li>・ 日常的に行うことのできる情報モラルの指導</li> </ul>
復興教育	3	4.3%	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 新学習指導要領施行における教育課程編成上の注意点等</li> <li>・ 沿岸と内陸の温度差の解消に向けての取組</li> </ul>

防災教育	4	5.8%	・防災マニュアル（いつ、どこで災害にあったとしても、気をつけるべきことや、どのような連絡方法があるかなどをケースに応じて生徒に学ばせるための方法）
読書指導	3	4.3%	・外国語と国語科が連動した考える力を育む読書指導 ・朝読書や通年でできる読書指導
健康教育	1	1.4%	・養護教諭のための研修（救急看護学等）
伝統文化教育	2	2.9%	・町と共に世界遺産登録を目指しているなのでその活動の進め方など
消費者教育	1	1.4%	・民間の経営者の話
学校経営	3	4.3%	・授業力向上を目指した、効果的な互見授業の進め方 ・地域と連携した防災行動計画（タイムライン）の策定 ・同僚性を高める学級経営の実践について
学級・学年経営	5	7.2%	・学級経営の方法等を取り上げた研修 ・小規模校であること、支援を要する生徒が複数名在籍していることを鑑み、学級・学年経営について、教育相談的な手法やSST的な手法を使った指導法について
生徒指導	6	8.7%	・生徒理解と生徒指導の進め方研修 ・部活動指導中における生徒の怪我等における、保護者への接し方について等 ・問題行動の例と対処策について ・いじめ対応 ・不登校生との実態と対応の仕方について ・学級学年経営での担任としての関わり方 ・クラス生徒とのよりよい面談の手法 ・問題行動を起こした生徒への初期対応
教育相談	19	27.5%	・コーチングのスキルを高め、生徒の面談等に活用できる内容 ・LGBTへの対応 ・グループエンカウンター ・心の健康教育（ストレスへの対応等） ・不登校生徒への対応 特別な支援を必要とする生徒への対応 ・ソーシャルスキルトレーニング
教育法規	5	7.2%	・苦情対応、事故対応、裁判事例 ・法律を理解し、法律に則った対応方法、事例、判例等の解説研修
校内研修	1	1.4%	・新教育課程に向けての校内体制の整備のための研修
校内研究	1	1.4%	・組織論等
カリキュラム・マネジメント	13	18.8%	・特色ある教育活動を行う上での実践例等 ・新教育課程に向けての校内体制の整備のための研修 ・定時制課程の教育課程の検討に活用できるようなカリキュラム・マネジメント研修
主権者教育	8	11.6%	・選挙に係わる生徒への指導方法 ・講義・模擬投票に加え、選挙制度についてわかりやすく教えるための研修

プログラミング教育	4	5.8%	・ 大学入試で実施される予定のプログラミングに関する情報
その他	18	26.1%	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 新しい大学入試制度に向けて、改革すべき点や工夫しなければならない学校の在り方について</li> <li>・ 校務支援システムに替わる、教務、進路、生徒のデータベースと成績処理、調査書に対応するシステムの開発、操作及びそれに必要なマクロなどの技術講習</li> <li>・ ホームページの作成と充実について（基本から応用）</li> <li>・ 認知症について</li> <li>・ 総合学科校における「産業社会と人間」の効果的な指導の進め方</li> <li>・ 2年目研修、3年目研修で、動機採用者とのグループワークではなく、1年上、2年上と近い採用の先輩の経験、体験の講話など同期との悩みの共有を解決するような研修内容</li> <li>・ 主権者教育や食育など、学校教育のあらゆる場面で指導を求められる領域について</li> <li>・ アンガーマネジメント講習</li> <li>・ プログラム技術について</li> </ul>

## エ 特別支援学校

	回答数	割合	主な回答
道徳教育	2	12.5%	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 道徳指導の実際</li> <li>・ 特別支援学校における、道徳教育</li> <li>・ 高等部での指導内容</li> <li>・ 重複障害児への指導の在り方</li> </ul>
特別活動	1	6.3%	・ 授業づくりや年間の進め方
総合的な学習の時間	1	6.3%	・ 学習指導要領
小学校外国語活動	2	12.5%	・ 年間を通した系統的な活動内容
キャリア教育	4	25.0%	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 知的障がい児童生徒の自立活動</li> <li>・ 授業や年間の進め方</li> <li>・ 文科省の答申の流れ</li> <li>・ 基礎的・汎用的能力（特にキャリアプランニング能力）に関わるもの</li> <li>・ キャリア発達の変化について</li> </ul>
特別支援教育	10	62.5%	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 新学習指導要領に関すること</li> <li>・ 児童生徒の主体性を育む授業づくり</li> <li>・ 具体的な指導内容や他教科、他領域とのつながりについて</li> <li>・ 個別の指導計画の更なる具体的活用方法</li> <li>・ 重複障害学級の児童生徒個々の目標設定と具体的な指導内容</li> </ul>
自立活動	8	50.0%	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 聴覚障がい教育における自立活動の指導について研修</li> <li>・ 知的障がい児童生徒の自立活動</li> <li>・ 校種別、特別支援学校の自立活動の実践例</li> </ul>

			<ul style="list-style-type: none"> <li>・ S S Tについて</li> <li>・ 感情コントロール the Cat-Kit について</li> <li>・ L Dの指導支援について</li> <li>・ 重複障害学級での授業の進め方</li> <li>・ 新学習指導要領に関わる自立活動の在り方</li> </ul>
情報教育	4	25.0%	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 段階を踏んだ情報モラルの進め方について</li> <li>・ タブレットP Cの活用についての研修</li> <li>・ I C Tの活用方法</li> </ul>
防災教育	2	12.5%	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 避難訓練の工夫</li> </ul>
学校安全教育	1	6.3%	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 障害のある児童・生徒に対して、子どもが自分の身を守る方法や学校としての安全対策の在り方について</li> </ul>
消費者教育	1	6.3%	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 授業の進め方</li> </ul>
学級・学年経営	1	6.3%	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学級経営案、学年経営案の作成について</li> </ul>
生徒指導	1	6.3%	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教育相談</li> </ul>
教育相談	5	31.3%	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 保護者支援</li> <li>・ W I S C－Ⅳの実施と分析教育相談体制づくり</li> <li>・ 事例から学ぶ教育相談の在り方</li> </ul>
校内研修	1	6.3%	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 研究の仕方</li> </ul>
校内研究	4	25.0%	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 小中高と大きな教職員集団における研究体制</li> <li>・ 校内研究の進め方</li> </ul>
カリキュラム・マネジメント	3	18.8%	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ カリキュラム・マネジメントの基本的な考え方や実践例</li> </ul>
プログラミング教育	2	12.5%	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 指導方法</li> <li>・ プログラミング教材を生かした授業づくり</li> </ul>
その他	1	6.3%	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 精神的に不安定な生徒に対する支援の仕方</li> </ul>

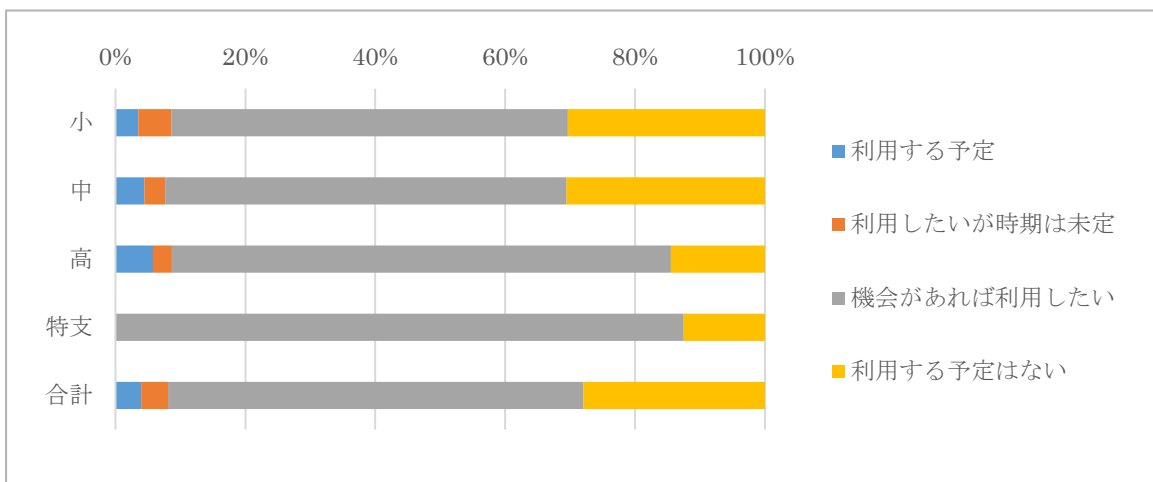
### 3 支援業務推進に関わる調査

#### (1) 教育相談に関わる調査（質問 11）

【質問 11】総合教育センターでは、幼児児童生徒、保護者並びに教職員等に対して、学校生活や特別な支援に関する教育相談を行っています（電話相談、来所相談、訪問相談）。今年度、この教育相談を利用する予定がありますか。

	小	中	高	特支	合計
利用する予定	11 ( 3.5%)	7 ( 4.5%)	4 ( 5.8%)	0 ( 0.0%)	22 ( 4.0%)
利用したいが 時期は未定	16 ( 5.1%)	5 ( 3.2%)	2 ( 2.9%)	0 ( 0.0%)	23 ( 4.1%)
機会があれば 利用したい	191 (61.0%)	97 (61.8%)	53 (76.8%)	14 (87.5%)	355 (64.0%)
利用する予定はな い	95 (30.4%)	48 (30.6%)	10 (14.5%)	2 (12.5%)	155 (27.9%)

※ 割合については P.59 を参照



#### (結果)

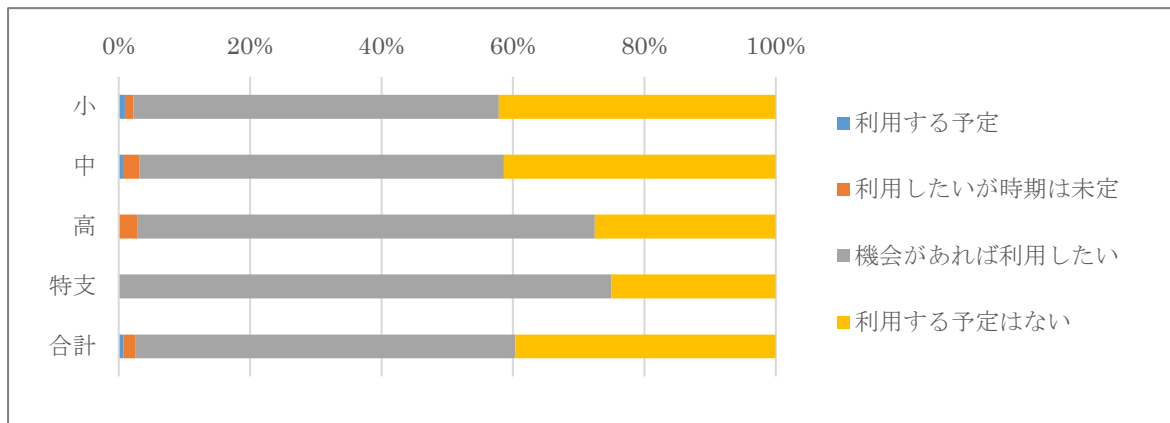
- ・利用しているまたは利用を希望している割合は、約 8.1%である。

(2) どようび相談に関する調査（質問 12）

【質問 12】 総合教育センターでは、「質問 11」の教育相談のうち、来所相談を土曜日にも行っています。今年度、このどようび相談を利用する予定がありますか。

	小	中	高	特支	合計
利用する予定	3 ( 1.0%)	1 ( 0.6%)	0 ( 0.0%)	0 ( 0.0%)	4 ( 0.7%)
利用したいが 時期は未定	4 ( 1.3%)	4 ( 2.5%)	2 ( 2.9%)	0 ( 0.0%)	10 ( 1.8%)
機会があれば 利用したい	174 (55.6%)	87 (55.4%)	48 (69.6%)	12 (75.0%)	321 (57.8%)
利用する予定はな い	132 (42.2%)	65 (41.4%)	19 (27.5%)	4 (25.0%)	220 (39.6%)

※ 割合については P.59 を参照



(結果)

- ・利用したいまたは利用を希望している割合は、約 2.5%である。

#### 4 研究業務推進に関わる調査

##### (1) センターの研究の活用状況に関する調査（質問13）

【質問13】総合教育センターでは、県内の教育課題の解決や教職員の資質向上を目指し研究を進めています。平成29年度の研究成果物の中で、貴校の教育活動の充実に役立ったと思うものを選んでください。（複数選択可）

	小学校		中学校		高等学校		特別支援学校		合計	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
①資質・能力の「三つの柱」(総論)	77	24.6%	55	35.0%	17	24.6%	3	18.8%	152	27.4%
②資質・能力の「三つの柱」(中学校国語／高等学校国語)	9	2.9%	31	19.7%	12	17.4%	0	0.0%	52	9.4%
③資質・能力の「三つの柱」(中学校社会／高等学校地理歴史・公民)	4	1.3%	33	21.0%	13	18.8%	1	6.3%	51	9.2%
④資質・能力の「三つの柱」(中学校数学／高等学校数学)	7	2.2%	38	24.2%	12	17.4%	0	0.0%	57	10.3%
⑤資質・能力の「三つの柱」(中学校理科／高等学校理科)	5	1.6%	29	18.5%	12	17.4%	0	0.0%	46	8.3%
⑥資質・能力の「三つの柱」(中学校外国語／高等学校外国語)	0	0.0%	34	21.7%	15	21.7%	0	0.0%	49	8.8%
⑦小学校道徳科における評価の在り方に関する研究－児童の学習状況や道徳性に係る成長の様子を見取り、評価する方法の充実を目指して－	182	58.1%	4	2.5%	1	1.4%	1	6.3%	188	33.9%
⑧中学校道徳科における評価の在り方に関する研究－認め、励ます評価に生かす自己評価の分析を通して－	5	1.6%	68	43.3%	1	1.4%	2	12.5%	76	13.7%
⑨物理法則の有用性を実感させ、興味・関心を高める高等学校「物理」の研究－日常生活とのつながりを重視した教材の開発と活用を通して－	0	0.0%	1	0.6%	5	7.2%	0	0.0%	6	1.1%
⑩小規模な高等学校における教育の質を確保するための遠隔授業の実証的調査研究(2年次)	0	0.0%	1	0.6%	5	7.2%	0	0.0%	6	1.1%
⑪論理的思考力を育むプログラミングの体験の在り方に関する研究－小学校算数科・理科の指導を通して－	32	10.2%	3	1.9%	2	2.9%	1	6.3%	38	6.8%
⑫高等学校における「通級による指導」の導入に関する研究－校内教育支援の体制面と運用面の整備を通して－	2	0.6%	1	0.6%	14	20.3%	4	25.0%	21	3.8%
⑬中学校における通級による指導の充実に関する研究－通常の学級とのつながりを重視した自立活動を通して－	3	1.0%	25	15.9%	0	0.0%	1	6.3%	29	5.2%
⑭特別支援学校におけるセンター的機能の充実に関する研究－多様なニーズへの対応を可能にする校内体制の確立を通して－	23	7.3%	11	7.0%	3	4.3%	12	75.0%	49	8.8%
特になし	84	26.8%	41	26.1%	34	49.3%	3	18.8%	162	29.2%

※ 各校種の上位5項目を色づけ（特別支援学校は上位3項目）

※ 割合についてはP.59を参照



(2) センターの研究の活用状況に関する調査（質問 14）

【質問 14】 総合教育センターでは、県内の教育課題の解決や教職員の資質向上を目指し研究を進めています。平成 28 年度の研究成果物の中で、貴校の教育活動の充実に役立ったと思うものを選んでください。（複数選択可）

	小学校		中学校		高等学校		特別支援学校		合計	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
①資質・能力の「三つの柱」（総論）	70	22.4%	54	34.4%	14	20.3%	1	6.3%	139	25.0%
②資質・能力の「三つの柱」（中学校国語／高等学校国語）	6	1.9%	26	16.6%	12	17.4%	0	0.0%	44	7.9%
③資質・能力の「三つの柱」（中学校社会／高等学校地理歴史・公民）	4	1.3%	30	19.1%	13	18.8%	1	6.3%	48	8.6%
④資質・能力の「三つの柱」（中学校数学／高等学校数学）	5	1.6%	30	19.1%	11	15.9%	0	0.0%	46	8.3%
⑤資質・能力の「三つの柱」（中学校理科／高等学校理科）	5	1.6%	22	14.0%	11	15.9%	0	0.0%	38	6.8%
⑥資質・能力の「三つの柱」（中学校外国語／高等学校外国語）	2	0.6%	26	16.6%	12	17.4%	0	0.0%	40	7.2%
⑦小学校における「考え、議論する」道徳授業の在り方に関する研究－親切・思いやりを体系的に育む問題解決的・体験的な学習を取り入れた指導方法の工夫－	128	40.9%	3	1.9%	1	1.4%	0	0.0%	132	23.8%
⑧中学校における「考え、議論する」道徳授業の在り方に関する研究－道徳的価値について多面的・多角的に学ぶ問題解決的な学習を取り入れた授業づくりを通して－	6	1.9%	50	31.8%	2	2.9%	0	0.0%	58	10.5%
⑨高等学校理科「物理基礎」における学習指導要領に対応したサポート資料の作成、特になし	0	0.0%	1	0.6%	4	5.8%	0	0.0%	5	0.9%
⑩高等学校家庭科における ICT 機器を活用した学習指導に関する研究	0	0.0%	0	0.0%	6	8.7%	0	0.0%	6	1.1%
⑪小規模な高等学校における教育の質を確保するための遠隔授業の実証的調査研究（1 年次）	0	0.0%	0	0.0%	4	5.8%	0	0.0%	4	0.7%
⑫特別支援教育におけるタブレットPCを活用した効果的な教育実践に関する研究	30	9.6%	10	6.4%	3	4.3%	13	81.3%	56	10.1%
⑬重度・重複障がいのある児童生徒の教育内容・指導方法の充実にに関する研究－「人とのつながり」に視点を当てた AT・ICT 機器の活用による授業実践を通して－	3	1.0%	3	1.9%	1	1.4%	8	50.0%	15	2.7%
特になし	132	42.2%	55	35.0%	40	58.0%	2	12.5%	229	41.3%

※ 各校種の上位 3 項目を色づけ

※ 割合については P. 59 を参照

(3) センターの研究の活用状況に関する調査（質問 15）

【質問 15】平成 27 年度以前の研究で児童生徒の学力向上や授業改善等に役立っている研究成果物があれば記述してください。

[自由記述]

※回答数が複数であったもの

研修内容	回答数
・指導案データベース	7
・岩手県教育研究発表会資料	6
・Gアップシート	5
・小・中学校特別支援学級における個別の指導計画の改善に関する研究 —通知票等と連動した個別の指導計画の作成・活用の実践を通して—	5
・校内授業研究の進め方ガイドブック I・II・III	5
・平成 26 年度（第 58 回）岩手県教育研究発表会資料 小規模・複式 指導「複式学級の特質を生かした学習指導の進め方ガイド」	5
・通常の学級に在籍する特別な支援を必要とする児童生徒への支援の充実に に関する研究（H27） ・生徒指導リーフレット	4
・本校の研究主題に関わる国語科についての研究	3
・教育研究 岩手	3
・平成 26 年度 主体的に学習する子どもを育てる複式学級の授業改善に に関する研究 —間接指導を充実させる映像資料集作成を目指して—	3
・小学校理科における観察・実験の進め方に関する研究 —観察・実験の指導 マニュアルの作成と活用をとおして— 知識・技能の活用を図る学習活動に 関する指導展開例	2
・校内資源を活用した校内支援実践事例集	2
・外国語活動の実践に関する研究・複式指導に関する資料	2
・いじめ対応マニュアル	2
・理科の単元学習指導のための自主開発教材とそれを効果的に活用した授業 実践集。	2
・学校内における人材育成の進め方	2

(4) Gアップシート・Gベース活用状況に関する調査（質問 16）

【質問 16】Gアップシート・Gベースをどのように活用していますか。

	おおいに活用している	ある程度活用している	あまり活用していない	活用していない
中学校	33	94	20	10

(5) 研究成果物の情報入手方法に関する調査（質問 17）

【質問 17】「質問 13～16」で回答した研究成果物を、どのような方法で知りましたか。  
以下の項目から、知った方法として最も多かったものを一つ選んでください。

	小学校		中学校		高等学校		特別支援学校		合計	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
岩手県教育研究発表会	111	35.5%	51	32.5%	11	15.9%	8	50.0%	181	32.6%
提案授業	0	0.0%	2	1.3%	1	1.4%	0	0.0%	3	0.5%
「教育研究岩手」	0	0.0%	5	3.2%	3	4.3%	0	0.0%	8	1.4%
センターの Web ページ	106	33.9%	55	35.0%	22	31.9%	5	31.3%	188	33.9%
研修資料	17	5.4%	18	11.5%	19	27.5%	3	18.8%	57	10.3%
センターのメールマガジン	29	9.3%	7	4.5%	1	1.4%	0	0.0%	37	6.7%
研究紹介リーフレット	13	4.2%	10	6.4%	4	5.8%	0	0.0%	27	4.9%
他者からの紹介	5	1.6%	7	4.5%	2	2.9%	0	0.0%	14	2.5%
その他	12	3.8%	2	1.3%	6	8.7%	0	0.0%	20	3.6%

※ 各校種の上位 3 項目を色づけ

※ 割合については P. 59 を参照

(6) スタートカリキュラムに関する調査（質問 18）

【質問 18】スタートカリキュラムを就学先に渡しています。

	渡している	渡していない
小学校	71	236
特別支援学校	3	12
合計	74	248

(7) センターの研究として取り上げてほしいものに関する調査（質問 19）

【質問 19】 貴校の課題を解決するために、総合教育センターの研究として取り上げてほしいことを、具体的にお書きください。

※回答数の多いもの上位 5 項目

ア 小学校

回答内容	回答数
小規模・複式指導	26
特別な支援を要する児童への対応	22
道徳の指導と評価	18
主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善	16
授業改善	12
小学校外国語	12

イ 中学校

回答内容	回答数
授業改善	13
その他	12
道徳の指導と評価	9
働き方改革	6
小中連携・一貫教育	5
不登校	5

ウ 高等学校

※回答数の多いもの上位 4 項目

回答内容	回答数
授業改善	4
主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善	2
カリキュラム・マネジメント	2
その他	2

エ 特別支援学校

回答内容
発達障がいとそれに併存する様々な困難を抱える児童生徒への指導、支援の在り方
特別支援教育におけるアクティブラーニングを取り入れた授業の在り方
特別支援学校における性教育に関する調査
特別支援教育における道徳教育について
ナラティブアプローチについて

（特別支援学校は学校数の関係上、回答数は省略）

## 5 総合教育センターの研修・支援・研究業務への意見・要望

### (1) 意見・要望に関する調査（質問 20）

【質問 20】総合教育センターの業務全般にかかわって、ご意見、ご要望等がありましたらご記入ください。

※回答数の多いもの上位 5 項目

回答内容	回答数
講座等の研修全般に関すること	35
研究に関すること	23
要請研修に関すること	5
教材開発等に関すること	4
支援相談に関すること	3

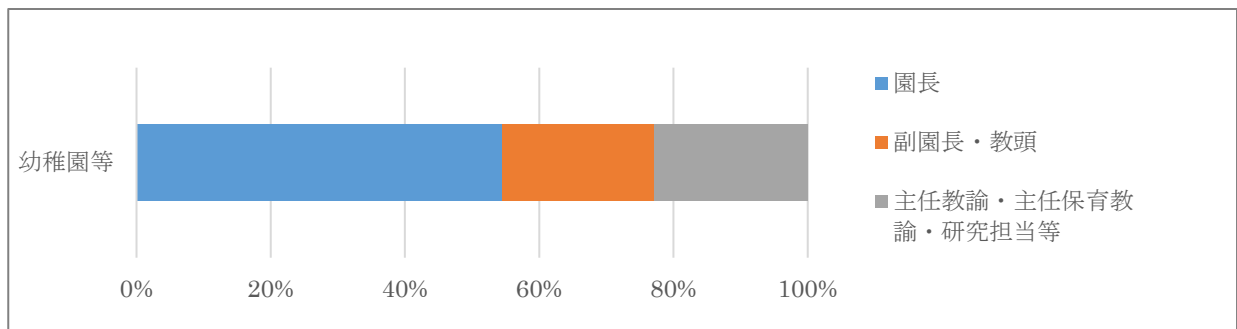
### Ⅲ 研修・支援・研究業務の推進に関する調査（幼稚園等）

#### 1 回答者に関わる調査（質問1）

【質問1】回答者の職名（分掌）を次の中から一つ選んで回答してください。

回答内容	回答数	割合
園長	67	54.5%
副園長・教頭	28	22.8%
主任教諭・主任保育教諭・研究担当等	28	22.8%

※割合についてはP.59を参照



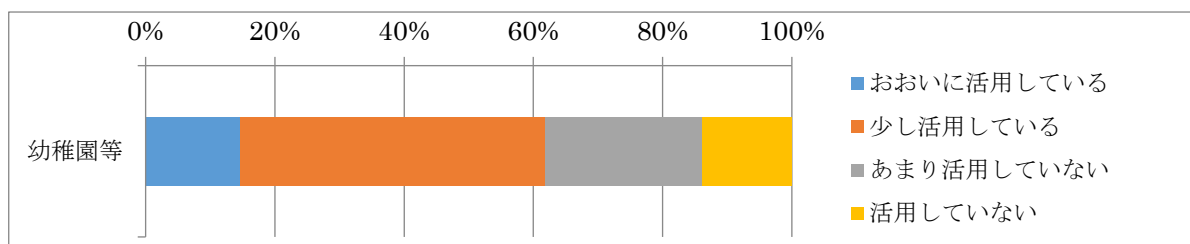
#### 2 研修業務推進に関わる調査

##### (1) 研修活用状況に関わる調査（質問3）

【質問3】回答者からみて、貴園職員が当センターで研修した内容をどの程度活用していますか。

	回答数	割合
おおいに活用している	18	14.6%
少し活用している	58	47.2%
あまり活用していない	30	24.4%
活用していない	17	13.8%

※割合についてはP.59を参照



#### (結果)

- ・研修内容については、「おおいに活用している」「少し活用している」を合わせると約6割になる。

(2) 活用している研修（質問4）

【質問4】「質問3」で「おおいに活用している」「ある程度活用している」と回答した場合のみお答えください。どのような研修内容を学校で活用していますか。

※回答数の多いもの、上位6項目

回答内容	回答数
基本研修（初任研、10年研）	32
教育研究発表会	10
保育技術協議会	10
岩手県幼稚園教育研究協議会	6
希望研	6
特別支援教育に関するもの	4

(3) 活用していない理由に関わる調査（質問5）

【質問5】「質問3」で「あまり活用していない」「活用していない」と回答した場合のみお答えください。当センターで研修した内容を活用していない理由は何ですか。

※回答数の多いもの上位3項目

回答内容	回答数
参加する機会がない／参加したことがない	28
職員が少ない	6
開園したばかりで	2

(4) センターの研修内容として取り上げてほしいこと（質問6）

【質問6】 貴園の課題を解決するために、総合教育センターの研修内容として取り上げてほしいことを、以下の具体的内容から選んで回答してください。（複数選択可）

回答内容	回答数	割合
幼児教育の動向	26	21.1%
指導計画の作成	27	22.0%
「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」	68	55.3%
5領域に関すること	11	8.9%
協同的な学び	11	8.9%
小学校との接続	33	26.8%
指導と評価に生かす記録	48	39.0%
子育て支援	11	8.9%
家庭や地域との連携	17	13.8%
幼児期の特別支援教育	46	37.4%
園内研究	16	13.0%
園内研修	33	26.8%
学校評価	8	6.5%
カリキュラム・マネジメント	17	13.8%
その他	2	1.6%

※上位5項目を色づけ

※割合については P.59 を参照



(5) センターの研修として取り上げてほしい研修内容（質問7）

【質問7】「質問6」で選択した研修内容として具体的にどのような内容を取り上げてほしいですか。

回答内容	回答数	割合	
幼児教育の動向	26	21.1%	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 幼児教育の動向、無償化の動き、国の動向等</li> <li>・ 今後の国の幼児教育改革の考え方について、指導の着眼点と評価の具体例</li> <li>・ 新教育要領の解説（事例を通して具体的に）</li> <li>・ 今後の幼児教育の在り方（公立幼稚園の存続が難しく、こども園化、保育園化に向けて動き出している）</li> <li>・ 支援・地域の拠点としての在り方（他園の実態）</li> <li>・ 保育所保育指針の在り方（園の運営、指導計画の作成、保育の実践）</li> <li>・ 小学校との連携を結び付けた研修</li> </ul>
指導計画の作成	27	22.0%	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 指導計画の教師の配慮の捉え方、ねらい、内容、環境等</li> <li>・ 指導計画作成について（教育要領・育ってほしい姿・5領域等）</li> <li>・ 環境構成と援助について</li> <li>・ 発達に応じた造形表現、音楽的遊びについて</li> <li>・ 楽器について（基本的な扱い、弾き方、指導の仕方等）</li> <li>・ 「育ってほしい姿」を取り込んだ教育計画（教育課程）の作成について</li> <li>・ 全体的な計画及び未満児の指導計画について</li> <li>・ 各園の指導計画の様式を持ち寄っての研修</li> </ul>
「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」	68	55.3%	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 子どもの具体の姿から「10の姿」を視点とした見方</li> <li>・ 幼児期の終わりまでに育ってほしい姿についての具体例</li> <li>・ 各年齢の具体的な姿の捉え方</li> </ul>
5領域に関すること	11	8.9%	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 各領域の具体的な実践や指導法など（例えば、楽器遊びや、教材の活用法など）</li> <li>・ 1歳以上3歳未満児の5領域について</li> </ul>
協同的な学び	11	8.9%	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 縦割り保育の中での年齢発達に合わせた保育の方法</li> <li>・ 協同的な学び・アクティブラーニングについて</li> <li>・ 主体的・協働的な活動の実践ポイントや実践例</li> </ul>
小学校との接続	33	26.8%	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 家庭や支援を受けている施設から園、園から小学校への支援の接続</li> <li>・ 小学校への接続を考えた音楽、体育の育ってほしい姿</li> <li>・ 子育てに困っている保護者の事例と解決策</li> <li>・ 家庭と保育の結びつけ方や伝え方</li> <li>・ アプローチカリキュラム、スタートカリキュラムの関連と作成にあたっての配慮内容</li> <li>・ 1年生の姿から見えてくる課題に対しての、園としての取組について</li> <li>・ 小学校教諭から保育園に求めること</li> </ul>

<p>指導と評価に生かす記録</p>	<p>48</p>	<p>39.0%</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自己評価について、実際に行う際の進め方や注意点について</li> <li>・ 時間をかけずに効果的に指導と評価につながる記録の取り方</li> <li>・ 各園で使用している記録を持ち寄って共有する研修</li> <li>・ 日々の個人記録作成についてと成長過程をとらえての記録の在り方</li> <li>・ 日誌の書き方、わかりやすい連絡帳の書き方（居残り児が多く、業務量が多い。業務削減したいが、具体策が出ないため。）</li> <li>・ 生活リズムが整わない子や精神的に不安定な子がいる家庭に対する支援の仕方、言葉かけについて（子育てをしながら仕事をしている保護者の大変さを受け止めつつも、どこまでが保育園としての支援なのかなど具体的な対応について）</li> <li>・ ICT化について（職員によって記録の差があるため）</li> </ul>
<p>子育て支援</p>	<p>11</p>	<p>8.9%</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 未満児、乳児保育の研修</li> <li>・ 親子の愛着関係について</li> <li>・ 子育て支援の必要性和保育園の役割、支援の仕方について</li> <li>・ 現代社会での子育ての気を付けることや重要なポイント（子育てに悩む母親への対応）</li> <li>・ 乳幼児の虐待、保育園と保護者の信頼関係、子育ての相談、アドバイス等</li> <li>・ 地域子育て支援実践の工夫</li> </ul>
<p>家庭や地域との連携</p>	<p>17</p>	<p>13.8%</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 保護者との良好な関係づくり</li> <li>・ 親の要求・要望への対応の仕方</li> <li>・ 幼児教育の大切さを、家庭や地域に理解してもらえるような発信の仕方</li> <li>・ 園と保護者との連携のとり方（園からの発信はあるが、保護者からの発信がない場合）</li> </ul>
<p>幼児期の特別支援教育</p>	<p>46</p>	<p>37.4%</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 支援を必要と思われる子の親への関わり方</li> <li>・ 臨床心理士の話</li> <li>・ 個別の指導計画と個別の教育支援計画について</li> <li>・ 幼児の発達障がいの現れ方と対応の在り方、家庭・専門機関との連携</li> </ul>
<p>園内研究</p>	<p>16</p>	<p>13.0%</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ アクティブラーニング等のこと</li> <li>・ 研究の方法、持ち方、おさえておくべき点</li> <li>・ 具体的な研究の進め方（意見討論方式の園内研修だと活発に意見が出ないため、また、園体制も多様化し、職員同士が集まる時間が減少していく中で、どのように研究等を進めていけるのか）</li> <li>・ 課題から実践からまとめまでの研究の流れに沿った「研究」論文の書き方</li> </ul>

園内研修	33	26.8%	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 他園の園内研修の様子とスケジュール等</li> <li>・ 園内研修を盛り上げるポイント</li> <li>・ 他園の模範となる計画、課程、報告についての研修発表を取り入れた研修会</li> <li>・ 限られた時間の中での園内研修の充実</li> <li>・ 若手教師が研鑽できるような研修の方法</li> </ul>
学校評価	8	6.5%	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自己評価、学校関係者評価の活かし方、さらには外部評価について（第三者評価）</li> </ul>
カリキュラム・マネジメント	17	13.8%	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 保育の評価の仕方、子どもの反応や成長の受け止め方（教師によって違うところをどう指導していくか）</li> <li>・ 幼児教育の質を保てるようなこども園の経営の在り方</li> <li>・ カリキュラム・マネジメントの捉え方</li> <li>・ 子供の関係性を育てる教育課程の展開および実践事例</li> <li>・ 幼児教育の質を保てるようなこども園の経営の在り方</li> </ul>
その他	2	1.6%	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 先進園や先進校の実践例をもとに情報交換や意見交流</li> <li>・ 若い臨時担任職員に、音楽リズム表現、制作、手遊び、ピアノ伴奏、絵本選びなど、基本的保育技術面の内容研修</li> <li>・ 保育士等の「キャリアアップ研修」の実施</li> <li>・ 幼児教育に偏る研修ではなく、乳幼児の保育（養護と教育）をクローズアップした内容</li> <li>・ チームで保育をしている中で保育の視点を合わせていくために必要なコミュニケーションの力（自分の思いを伝える、相手を受け入れるなど）</li> <li>・ 非認知的能力を高める保育、アタッチメント理論について</li> </ul>

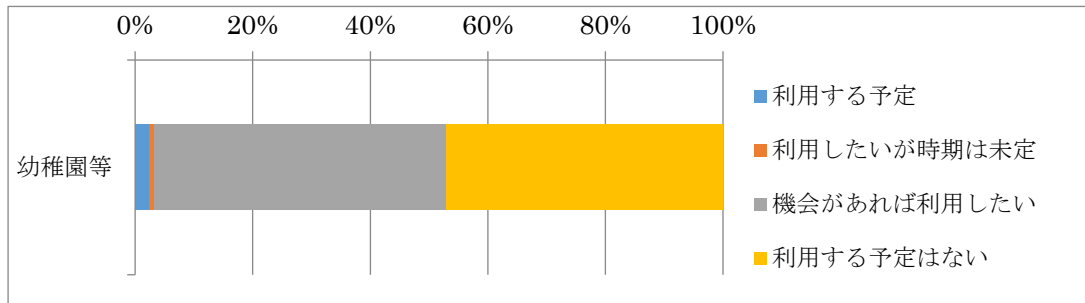
### 3 支援業務推進に関わる調査

#### (1) 教育相談（質問 8）

【質問 8】総合教育センターでは、幼児児童生徒、保護者並びに教職員に対して、学校・園生活や特別な支援に関する教育相談を行っています（電話相談、来所相談、訪問相談）。今年度、この教育相談を利用する予定がありますか。

回答内容	回答数	割合
利用する予定	3	2.5%
利用したいが時期は未定	1	0.8%
機会があれば利用したい	60	49.6%
利用する予定はない	57	47.1%

※割合については P. 59 を参照

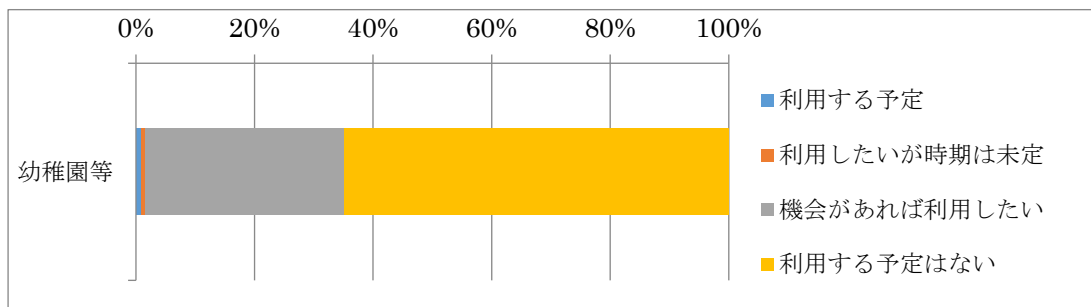


#### (2) どうぶ相談（質問 9）

【質問 9】総合教育センターでは、「質問 8」の教育相談のうち、来所相談を土曜日にも行っています。今年度、この「どうぶ相談」を利用する予定がありますか。

回答内容	回答数	割合
利用する予定	1	0.8%
利用したいが時期は未定	1	0.8%
機会があれば利用したい	41	33.6%
利用する予定はない	79	64.8%

※割合については P. 59 を参照



#### 4 研究業務推進に関わる調査

##### (1) センターの研究の活用状況に関する調査（質問 10）

【質問 10】 総合教育センターでは、県内の教育課題の解決や教職員の資質向上を目指し研究を進めています。これまでの研究成果物の中で、貴園の教育活動の充実に役立ったと思うものがありましたら選んでください（複数選択可）

	回答数	割合
幼稚園・こども園・保育所における子育ての支援の進め方に関する研究 －親と子が共に育つ支援の質的充実を図るための事例集作成を通して－ （平成 27 年度）	34	69.4%
幼稚園における幼児一人一人が共に育ち合う指導の在り方に関する研究 －特別支援教育園内体制の構築をとおして－ （平成 19・20 年度）	11	22.4%
幼小連携のカリキュラム作りに関する研究－発達段階に応じた子どもの学びを軸として－ （平成 18 年度）	6	12.2%
表現活動をとおした幼小連携の在り方に関する研究－造形と音楽を関連させた活動を中心として－ （平成 9・10 年度）	3	6.1%
幼小連携の進め方に関する研究－幼児児童の感性をはぐくむ音楽的な活動をとおして－ （平成 15・16 年）	1	2.0%

##### (2) 研究成果物の情報入手方法に関する調査（質問 11）

【質問 11】 「質問 10」で回答した研究成果物を、どのような方法で知りましたか。以下の項目から、知った方法として最も多かったものを一つ選んでください。

	回答数	割合
岩手県教育研究発表会	23	46.9%
「教育研究岩手」	11	22.4%
センターWeb ページ	5	10.2%
研修資料	23	46.9%
センターのメールマガジン	0	0.0%
研究紹介リーフレット	0	0.0%
他者からの紹介	2	4.1%
その他	6	12.2%

※上記の表の割合は、下記の表の回答園数を基準とする。

	合計
回答園数	49

(3) 教育体制に関する調査（質問 12）

【質問 12】日々の保育や専門的内容（特別支援教育や危機管理等）で悩んだ時に、相談できる機関・団体はありますか。

相談できる機関・団体	回答	割合
有	99	80.5%
無	22	17.9%

※割合については P. 59 を参照

(4) 教育体制に関する調査（質問 13）

【質問 13】「質問 12」で、「有」と回答した場合にのみお答えください。どのような悩みをどの機関に相談したのかを記入してください

機関	回答数	具体的内容
市町村教育委員会	18	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年長児の子どもに対して、小学校就学に向けての相談を行った。実際に見てもらった。</li> <li>・発達支援の対象児について相談、報告、連絡会を設け、情報の共有に努めている。</li> <li>・療育相談を行ってくれるコーディネーターなどに、個に応じた支援方法など、連携を図っている。</li> <li>・特別に支援を要する幼児の情報共有と具体的支援方法について</li> <li>・日々の保育についての相談について</li> <li>・市役所担当課に親の養育態度について</li> <li>・緊急対応マニュアルについて</li> </ul>
発達相談センター	16	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特別支援の必要な幼児への対応の仕方</li> <li>・市の発達相談センターや教育相談員による巡回指導の利用</li> </ul>
巡回相談	10	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子育て支援</li> <li>・特別支援学校継続型訪問支援</li> </ul>
療育センター	10	<ul style="list-style-type: none"> <li>・支援が必要な子どもの援助、保護者への対応について具体的な支援方法についてアドバイスをもらった。</li> <li>・診断を受けた子に対しての園内での対応について</li> </ul>
市町村児童福祉課	7	<ul style="list-style-type: none"> <li>・支援児へのかかわり方等子育て支援、県教育相談、市療育相談</li> </ul>
子育て支援センター	6	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日々の保育（支援を必要とする子どもへの対応等）について</li> <li>・支援センター幼児の発達相談について</li> </ul>
特別支援コーディネーター	5	<ul style="list-style-type: none"> <li>・岩手大学附属特別支援学校 特別支援教育コーディネーター</li> <li>・県南地域特別支援コーディネーター</li> <li>・県のエリアコーディネーターに保育時の支援を要する子供へのかかわり方について相談</li> <li>・地域の特別支援コーディネーター等、特別支援学校との連携</li> </ul>

(5) 教育課程に関する調査（質問 14）

【質問 14】 近隣の園同士での教育課程の共有はなされていますか。

近隣の園同士での教育課程の共有	回答	割合
有	28	22.8%
無	91	74.0%

※割合については P. 59 を参照

(6) 教育課程に関する調査（質問 15）

【質問 15】 共有したものをどのように保育に活用したかを記入してください。

他園と共同 で	15	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市内の幼保小研修会で、市立 4 幼稚園が共同でアプローチカリキュラムの作成を担当して提案・情報を交換しながら活用している。</li> <li>・町内の保育園、こども園の園長会議が毎月あり、その中で諸々話し合うことが多い。</li> <li>・町保育協議会野中で、職種、担当年齢別に研修をし、それぞれテーマを決め、研修を行った。</li> <li>・実践事例を通して指導方法を学び、指導の改善に生かしている。</li> <li>・市内こども園の教育課程について共通化を図った上で、各園の現状に合わせて活用している。</li> <li>・町内 3 園の子ども園で職員が集まり、年齢ごとの年間計画や教育課程を作成している。</li> <li>・小学校、幼稚園、保育園との連絡協議会があり、授業参観、保育参観を行いそれぞれ意見交換や保育対応の参考としている。（年 4 回以上、H29 年度は 7 回）</li> <li>・市全体では年 3～4 回研修会を行っている。当法人 5 施設では月 1 回施設長、2 か月に 1 回主任保育士が研修会を行い職員会議等で伝え、保育に活用している。</li> <li>・月 1 回保育士の打ち合わせ、町の保育士連絡協議会、各園の様子を情報交換している。</li> </ul>
指導案	5	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指導計画立案の際に活用、子どもの育ち（クラス経営の振り返り等も）を見直す際に活用している。</li> <li>・年齢別の指導案を作成するときに共通の教育課程として参考にし、活用している。</li> <li>・保育課程を作成し子どもの人権や主体性を尊重した保育計画を立て実行している。</li> </ul>
自園の研究	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各年齢の発達過程を確認し合い、自園の子どもの姿と照らし合わせ、長期及び短期指導計画を作成している。</li> </ul>

(7) スタートカリキュラムに関する調査（質問 16）

【質問 16】園児の就学先小学校のスタートカリキュラムの共有はなされていますか。

園児の就学先小学校のスタートカリキュラムの共有	回答	割合
有	39	31.7%
無	81	65.9%

※割合については P. 59 を参照

(8) スタートカリキュラムに関する調査（質問 17）

【質問 17】「質問 16」で、「有」と回答した場合にのみお答えください。共有したものをどのように保育に活用したかを記入してください。

教育課程等の見直し	14	<ul style="list-style-type: none"> <li>・隣接する小学校にほとんどの園児が入学することをふまえ、スタートカリキュラムに円滑に移行していくことができるよう、生活時程や学習内容を考慮して保育を行った。</li> <li>・生活面での自立をねらいとして、生活リズム、持ち物の管理、身のまわりの始末のチェックを行う生活カードを作成し、家庭にて取り組み提出してもらっている。</li> <li>・アプローチカリキュラムを保育計画の中に位置づけ、小学校生活を円滑にスタートできるよう配慮した。</li> <li>・「市全体のスタートカリキュラム」を元に、それに沿って年長児は就学前までに育てたい姿に近づけるよう、指導計画を立てている。</li> <li>・「就学までに育てほしい姿」がスタートカリキュラム・アプローチカリキュラムで明記されていることから、教育課程と照らし合わせ、何が育ち、どの姿につながっているのかを期ごとの反省で常に検証し保育に生かしている。</li> <li>・市全体の小学校のスタートカリキュラムの共有である。就学までに身につけておきたい姿や小学校生活を見据えた生活リズムなどを保育に取り入れていった（アプローチプログラム）。</li> <li>・身の回りのことの自立、安全指導、聞く・話すの指導、場面ごとの挨拶、着席しての活動、時計の見方、時間割を意識した活動など。</li> </ul>
小学校との連携	9	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校との交流が多く、先生方と話す機会もある。</li> <li>・学校との連絡会等に参加し共有している。</li> <li>・幼保小連絡会議の中で市の幼児教育振興プログラムの推進として、小学校入学をスムーズにするため、子どもの自立や主体的活動の大切さは共有している。</li> <li>・連絡協議会の会員施設が話し合いし、小学校で最終案がまとめられた。</li> <li>・「保小スムーズコネクトプログラム」を市内にて共有している。</li> <li>・町内では幼保小の連携がされており、入学する小学校との就学前に話し合いがもたれる機会があり、共有し同じ目線で援助するようになっている。</li> </ul>
共有までになってない	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スタートしたばかりなので活用まではいかないが、以前よりは小学校の先生方と話し合う機会が増えた。</li> </ul>



家庭との連携	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>生活面での自立をねらいとして、生活リズム、持ち物の管理、身のまわりの始末のチェックを行う生活カードを作成し、家庭にて取り組み提出してもらっている。</li> <li>幼保小連携会で説明を受け、学校からリーフレットなどをもらい、保護者へ情報提供している。</li> </ul>
指導案	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>指導計画立案の際に活用、子どもの育ち（クラス経営の振り返り等も）を見直す際に活用している。</li> <li>年齢別の指導案を作成するときに共通の教育課程として参考に活用している。</li> <li>保育課程を作成し子どもの人権や主体性を尊重した保育計画を立て実行している。</li> </ul>

(9) 園での研究体制に関する調査（質問 18）

【質問 18】 貴園では、研究を推進するにあたり、組織や仕組みといった園内での体制を工夫していますか。

園内での研究体制	回答	割合
有	60	48.8%
無	59	48.0%

※割合については P.59 を参照

(10) 園での研究体制に関する調査（質問 19）

【質問 19】 どのように工夫しているかを具体的に記入してください。

	回答数	具体的内容
園内研修	41	<ul style="list-style-type: none"> <li>研究主任を中心に実態分析とともに理論的な研修をしている。</li> <li>園内研修という形で「今年のテーマ」を決めてやっている。常勤中心になるが、月 1 回行っている。非常勤は年 3 回行っている。</li> <li>ワークショップ方式等で園内研修を進めている。</li> <li>主幹保育教諭を中心に毎年度、研究・研修課題について検討し月 1 回のペースでテーマに沿って進めている。</li> <li>今年度は新採用もいるので、理論研究（輪読会含み）を多くもったり、保育研究会をベテランの教諭から行ったりしている。また、班構成（理論班、保育班、記録班、指導計画班等）にせず、研究主任を中心に研究を進め深めている。</li> <li>職員を 2 グループに分け 1 つを「研修」チームとしていて、園内・外への研修や研究発表に向けて中心として活動している。</li> </ul>
指導主事など外部講師	7	<ul style="list-style-type: none"> <li>1 人 1 人実践提案とし、指導主事を招聘し、研究会を位置付けた。</li> <li>自園の研究の方向性に不安が出たときは外部講師より助言をいただいている。</li> <li>研究主任を中心に、見通しをもった研究を立て、年 2 回指導主事の先生に来ていただき研究内容や保育について指導いただいている。</li> </ul>

他園との研修会	5	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 保育協会内研修組織内でのグループ研究を行なっている。</li> <li>・ 公立園の保育士が集まり合同で研究会を行っている。</li> <li>・ 近隣5園に保育士が月1回集まり保育研究を行っており、その研究を全職員で情報共有したり考えあったりしている。</li> </ul>
小学校との研修会	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 近隣小学校との合同研修や互いの施設の研究・研修参加している。</li> <li>・ 園内授業研究会に、小学校にも声をかけ、授業参観してもらうなど、研究内容の共有を図っている。</li> </ul>

(11) センターの研究として取り上げてほしいものに関する調査（質問 20）

【質問 20】 貴園の課題を解決するために、総合教育センターの研究として取り上げてほしいことを、具体的にお書きください。

	回答数	具体的内容
特別支援の必要な幼児への対応の仕方	8	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 園としての受け入れ方や保育について</li> <li>・ 特別支援の必要な幼児への対応の仕方、小学校との接続について</li> <li>・ 支援教育について（園の指導計画の中へどう繰り入れていけばよいか）</li> <li>・ 気になる子ども（支援が必要な子ども）の様子を知らせ、発達相談等につなげ、早い段階で支援をしていくのだが、こういった場合の保護者へのアプローチの仕方</li> </ul>
人材育成について	7	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 若手・中堅・ベテランのそれぞれに向けた「領域」のとらえ方</li> <li>・ 「一人ではできない遊び」の実技の充実、保育技術の向上（職員自身があまり集団あそびを経験しないで育った世代となってきたため）</li> <li>・ 保育の資質向上のための取組</li> </ul>
2歳児、満3歳児の保育、教育についても学んでいきたい。	6	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 預かり保育の子への指導計画について（園経営への組み入れ方）</li> <li>・ 乳幼児期（0歳児）からのつながりについて</li> </ul>
少人数保育を充実させるための内容	5	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 少ない園児数の中で、どのように協同性を育て方</li> <li>・ 過疎地域での子育ての不安解消について（幼→小→中→高→大と普通の教育を受けさせることが可能なか不安なため）</li> <li>・ 過疎地域における幼児期の指導の在り方、少子化により同年齢の子が少ない中での保育（子どもの思いの発散）</li> </ul>
カリキュラム・マネジメントについて	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 新教育要領の内容を実現することができるようなカリキュラムのモデル案等の提案</li> <li>・ 新しい教育要領にともない教育課程において見直したところや、配慮すべき点など</li> </ul>

アプローチ カリキュラム スタートカリキュラム に関する事	4	・ 小学校との連携について（アプローチカリキュラム→スタートカリキュラム）、連携をどのように図っていくことが児童にとってよいのか等
園内研修に関する事	4	・ リーダーシップ研修会（園内の職員が共に育ちあうために）園内、研修についての方法、進め方、ファシリテーター育成など。 ・ 教育、保育の質の捉え方

## 5 総合教育センターの研修・支援・研究業務への意見・要望

### (1) 意見・要望に関する調査（質問 21）

【質問 21】総合教育センターの業務全般にかかわって、ご意見、ご要望等がありましたらご記入ください。

回答内容	回答数
講座等の研修全般に関する事	9
研究に関する事	1
要請研修に関する事	2

## IV 分析・考察

### 1 小・中・高・特別支援学校についての分析・考察

#### 「研修」について

---

##### <研修内容の活用について>

- 1 各校種とも、特別支援に関する研修内容が多く活用されている。特別な支援の必要な児童・生徒に対する理解が進んできている一方で、その対応や支援方法に苦慮しているものと考えられる。また、今年度から高等学校における通級による指導が制度化され、その指導・支援の充実が求められていることから、今後、教育センターとしても更に特別支援教育に関する研修内容の充実に努めていきたい。
- 2 小学校では国語、中学校では数学に関する研修が多く活用され、それぞれ具体的に国語は言語活動の充実、数学は評価問題等の作成への活用が多くあげられている。授業づくりや全国学力・学習状況調査、岩手県小・中学校学習定着度状況調査対策へのニーズの大きさが覗える。
- 3 生徒指導に関する研究も多くあげられ、特にいじめや不登校への理解とその対応を多く占めている。年々増加傾向にある不登校児童・生徒に対して、予測するための様々なリスクへの理解と具体的な手立てを求められている。また、平成 25 年からいじめ防止対策推進法が施行され、学校現場で具体的にどのように指導していったらよいのかニーズが高まっていることから、センターとして研修の充実を図りたい。

##### <取り上げてほしい教科・科目について>

- 1 研修で取り上げて欲しい教科・科目については、小、中、高等学校を通じて『算数・数学』と『理科』のニーズが高い。いずれも、新学習指導要領及びいわての授業づくり 3つの視点に基づいた授業づくりに関する研修の要望が多くあげられた。要望であげられた内容を十分加味し、より具体的で実践的な研修にしていくよう努めていきたい。
- 2 小・中・特別支援学校においては、『特別の教科 道徳』に対するニーズが圧倒的に高いことが分かった。各学校が、新学習指導要領に基づいた実践を進めていけるよう、今後、指導内容の系統性及び具体的な指導方法、評価についての実践的な研修を充実させていくよう努めていきたい。
- 3 中学校及び高等学校においては、『外国語』に関する研修についてのニーズが高い。英語教育の充実が求められてきている中で、新学習指導要領を見据えた「主体的・対話的で深い学び」の視点による授業改善の方策、評価の在り方について、実践的な内容を盛り込んだ研修を一層充実させていく必要がある。
- 4 小学校においては、『小学校英語』についてのニーズが非常に高い。小学校外国語科の実施を目前に控え、指導内容や指導方法等の小学校外国語科の指導に対する不安が背景にあると考えられる。今後は、外国語活動も含めた外国語教育の小・中の系統性を踏まえた研修を一層充実させていきたい。

## <取り上げてほしい領域等について>

- 1 研修として取り上げて欲しい領域等については、前回の調査と同様、小・中・高等学校のいずれの校種も『特別支援教育』が最も高い。特に通常学級に在籍する児童生徒への対応、合理的配慮等についての要望が多く見られることから、対応についての具体的な研修を一層充実させることに努めたい。
- 2 小学校、中学校においては、『道徳教育』に関するニーズが高い。個々の要望を見てみると、授業づくりや評価に加え、特に全体計画や教育課程への位置付けなど、より広い視点からの道徳教育の計画や実施についての要望が多い。授業づくりに加え、教育課程や全体計画の見直しなどに関する内容についても研修の一層の充実に努めたい。
- 3 小学校においては、『プログラミング教育』に関する研修実施のニーズが高い。本年度、示範授業を実施していることから、授業例や教材・教具等の一層の周知や活用を図るとともに、研修の一層の充実に努めたい。
- 4 中学校、高等学校、特別支援学校において、昨年度と同様に『教育相談』に関するニーズが高い。個々の要望を見てみると、様々な問題を抱える生徒や保護者等に対する傾聴の仕方、カウンセリングの手法などの具体的な対応についての研修のニーズが高い。今後は、LGBTなどの新たな対応も視野に入れながら、教育相談に関する研修の一層の充実に努めたい。
- 5 小学校、中学校、高等学校、特別支援学校ともに、カリキュラム・マネジメントの研修についてのニーズが高まっている。個々の要望の内容から、新学習指導要領の実施に向けた必要な考え方や方策についての具体的な研修を充実させていく必要がある。

## 「支援」について

---

- 1 『教育相談』の利用は、「すでに利用したまたは利用する予定である」「利用したいが時期は未定である」合わせて8.1%のニーズがある。回答時期が6月という不適応問題が表面化し始める時期であり、利用する必要性を感じるまでには至っていない状態があることが考えられるため、この時点で利用している学校の割合は少ないが、前回よりも微増している。また、「機会があれば利用したい」割合は、前回と比較して特別支援学校において大幅に増加(53.3→87.5%)するとともに、高等学校においても6%増加している。これは、特別な支援の必要な生徒への対応の必要性が高まり、専門機関を利用する意識が高まっていることが影響していると考えられる。その一方で、中学校において「機会があれば利用したい」が減り、「利用する予定がない」が増加していることから、中学校への働きかけや連携の在り方などを検討していく必要がある。
- 2 『どようび相談』は、「すでに利用したまたは利用する予定である」「利用したいが時期は未定」合わせて2.5%と、「教育相談」と比較して低い割合であるが、前回と比較して微増している。さらに、「機会があれば利用したい」が5割を超えており、今後もニーズに応じて対応できるよう継続していきたい。

## 「研究」について

センターの研究内容は3年ごとに大きく変わるために一概に経年比較をすることはできないが、それでもH28年度の前回調査から比較すると研究内容の活用状況の割合が高くなっていることがわかる。WEBページをはじめとして、各種研修などの利用が多くなってきているためと考えられる。センターとしては、日頃の利用に感謝しつつ、それと共に更なるニーズに応えられるように一層努力をしていきたい。

### ＜平成29年度の研究成果物の活用について＞

- 1 小・中・高等学校共通して、『資質・能力の「三つの柱」を総合的に育む授業の在り方に関する研究（2年次）－主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を通して－（総論）』の活用率が高い。

平成29年の告示された新学習指導要領において、子供たちに求められる資質・能力を、学習する子供の視点に立ち、教育課程全体や各教科等の学びを通じて『何ができるようになるか』という観点から整理された「資質・能力の三つの柱」を総合的に育むためには、『何を学ぶのか』という指導内容等の見直しとともに、それらを『どのように学ぶのか』という子供たちの具体的な学びの姿について「主体的・対話的で深い学び」の実現の視点からの見直しが欠かせないものとされている。今後の授業改善が一層求められる今日、本研究への注目が高まったと考えられる。

- 2 小学校においては、『小学校道徳科における評価の在り方に関する研究－児童の学習状況や道徳性に係る成長の様子を見取り、評価する方法の充実を目指して－』の活用率が高い。

平成27年3月に、小学校学習指導要領が一部改正され、「特別の教科 道徳」が位置付けられた。これにより、指導の充実とともに児童を認め励ます評価を進めることとなった。そのような中、児童の学習状況や道徳性に係る成長の様子を見取り、児童のよい点や進歩の状況などを適切に評価する方法について研究し、児童がよりよく生きるための基盤となる道徳性を養うための小学校道徳科における評価の在り方を提案する本研究は、多くの小学校にとって喫緊の課題に対し、具体的な提案を示しているものであり、注目が高まったと思われる。

- 3 中学校においては、『中学校道徳科における評価の在り方に関する研究－認め、励ます評価に生かす自己評価の分析を通して－』の活用率が高い。

平成27年3月に、中学校学習指導要領が一部改正され、「特別の教科 道徳」が位置付けられた。これにより、指導の充実とともに児童を認め励ます評価を進めることとなった。そのような中、認め、励ます評価に生かす自己評価の分析方法について研究し、人間としての生き方についての考えを深め、よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うための中学校道徳科における評価に効果的に活用する方法を提案する本研究は、多くの中学校にとって喫緊の課題に対し、具体的な提案を示しているものであり、注目が高まったと思われる。

- 4 高等学校においては、『資質・能力の「三つの柱」を総合的に育む授業の在り方に関する研究（2年次）－主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を通して－（中学校外国語／高等学校外国語）』の活用率が高い。

現行の学習指導要領における「これまでの外国語科の授業」は、『言語活動の充実』が図られてきた。そして、これからの授業改善としては、育成を目指す「資質・能力」を明確にし、「主体的・対話的で深い学び」、そして「単元などのまとまりを見通した学び」を実現させるとともに、「評価」を充実させていくことが求められていく。今後の授業改善が一層求められる今日、高等学校における課題意識の高さが、本研究への注目を高めたと考えられる。

- 5 特別支援学校においては、『特別支援学校におけるセンター的機能の充実に関する研究－多様なニーズへの対応を可能にする校内体制の確立を通して－』の活用率が高い。

相談対応は特別支援教育コーディネーターや支援センター部の担当教員に限られていることが多く、支援センター部以外の教職員の専門性を活用できる校内体制が確立されていない現状がある。このような現状を改善するために、特別支援学校におけるセンター的機能の取組において、教職員の専門性を十分に活用した相談チームによる対応の在り方を探り、相談の実践を通して、その有効性を明らかにする本研究を活用することで、今後の改善を推進したいという意識が、特別支援学校における本研究への注目を高めたと考えられる。

### <平成 28 年度の研究成果物の活用について>

- 1 全校種において、『資質・能力の「三つの柱」（総論）』の活用率が高い。また、中学校、高等学校においては、総論に併せて各教科の研究成果物の利用が満遍なく見られる。新学習指導要領の実施に向け、各学校での授業改善に有効に活用されていると考えられる。
- 2 小学校、中学校ともに『「考え、議論する」道徳授業の在り方に関する研究』の活用率が高い。新学習指導要領で、これまで以上に道徳の重要性が位置付けられ、道徳的価値について、多面的・多角的に考え、議論する授業が求められている。本研究が各学校の高いニーズに応えた内容であったことがうかがえる。
- 3 特別支援学校では、『特別支援教育にタブレットPCを活用した効果的な教育実践に関する研究』の活用率が81.3%と非常に高い。高い教育効果を背景に、ICTの整備が年々進んでおり、それを活用する教員側のスキル向上は欠かせない。この分野でのICTを活用した実践例のニーズは高く、活用率に反映されている。

### <平成 27 年度以前の研究成果物の活用について>

回答として比較的多かったのは、「指導案データベース」、「岩手県教育研究発表会資料」であった。回答数が突出して多いものはなかったものの、数多くの研究成果物が挙げられており、幅広く資料が活用されていることが見て取れる。また、「特別支援」、「複式指導」、「理科」に関する研究成果物が複数挙げられており、学校からのニーズがあることが窺える。

## ＜研究成果物の入手方法について＞

- 1 研究成果物の情報入手方法については、前回調査と同様にセンターWEBページの活用が最も割合として大きくなっている。頻繁にWEBページが更新されるなど、積極的な情報発信が行われていることも成果につながっていると考えられる。新たに加わった項目「提案授業」については、年々提案授業の数、参加者が増えてきていることから、センターの研究を知る良い機会となることが期待される。
- 2 「研修資料」については、前回調査と比較して約半分の割合となった。研修資料への活用を通して、積極的に情報発信していく必要がある。

## ＜センターの研究として取り上げてほしいもの＞

- 1 前回調査と同様に、小学校においては、「小規模・複式指導」に関するニーズが高い。県内の児童数の減少により、小規模校及び複式の小学校が多くなってきており、複式指導に不安や課題を抱える小学校が多いことが窺える。
- 2 中学校及び高等学校においては、「授業改善」に関する研究への要望が多い。「資質・能力の三つの柱」【総論】の活用状況が多いことから、新学習指導要領を具現化する授業方策などへのニーズがあることが考えられる。本研究の成果を積極的に発信し、県内各地において普及に努めていきたい。
- 3 特別支援学校については、学校種に応じて研究内容へのニーズは多様である。本調査において、特別支援に関する研修や研究内容が多く活用されていることから、特別な支援を必要な児童生徒への対応や支援方法に苦慮しているものと考えられる。今後も、学校や児童生徒の現状を把握し、特別支援教育に関する研究内容の充実に努めていきたい。



## 「意見・要望」について

各校からの意見・要望に関してまとめると概ね以下のとおりである。

- ・全国小・中・高・特支各校および研究団体の研究テーマや公開研究会の（情報）データベースをより充実していただくとありがたい。
- ・研修・講座や研究発表大会を長期休業中や土曜日に企画していただけると受講しやすい。（小規模校では、授業日に研修のために学校を空けることが難しいため）
- ・派遣指導の依頼方法がもっと手軽だとよい。
- ・S Q Sに代わるアンケート集計ソフトの研修があるとよい。（S Q Sが不安定なので）
- ・今後も岩手の児童・生徒、教職員のために研究を進め、広く発信していただけるようお願いしたい。
- ・指導資料（指導案・論文等）をサイト内検索によって絞り込んで選択し活用できるのは大変ありがたい。
- ・センターから遠い地域における移動公開講座の開催
- ・岩手県の先進教育機関として、日本の教育の最先端を学べる場所であってほしい。
- ・センターの研修指導主事の方々を招聘したくても、各学校では、講師の謝金・旅費を確保する術はなく、講師派遣を要請した場合、教育センターか教育事務所で派遣した分の旅費がある程度、確保されていれば、依頼もしやすいし、県内（特にセンターから遠方の県北・沿岸部）の教育の活性化が図られると考えられる。ぜひ、県央部以外の地域の教育振興を図る手立てとして、出前講座の旅費の確保をご検討いただけるとありがたい。
- ・先進的な教育活動をしている人の講義を聴き、意見交換する機会があれば良い。
- ・小規模校では職員数が少なく学校行事や学校事情等により、センター主催の研修講座等への参加が難しい場合がある。悉皆研修と明記していないにもかかわらず、学校事情を説明しても理解していただけず各校必ず参加せよとの指示があった。もっと弾力的に対応していただけないものか。
- ・学級担任層を対象とした「アドラー心理学に学ぼう！を予防する学級集団づくり研修講座」は、三者面談期間中（高校野球直前で授業交換も難しい時期）で、担任層の出席が難しい。長期休業等参加しやすい時期での開催をお願いしたい。
- ・定時制高校（全日制と併設）ですが、各種アンケートや研修等において、例えば、全定合わせて1名なのか、全日1名・定時1名なのかわかりにくい時がある。案内の際には、わかりやすく表現してもらえれば助かる。
- ・年度当初の基本研修、特別研修対象者登録について、年度末の人事異動等により担当者間の引き継ぎがうまく為されずに登録漏れがあり、センターの担当者にご迷惑をおかけしてしまうことがあった。年度初めにも登録についての再確認連絡があるとありがたい。
- ・教育センターでは、非常にきめ細かく教育実践研究を進めていると感じている。今後も、「リアルな効果的授業」の提案を継続してほしい。

## 2 幼稚園等についての分析・考察

### 「研修」について

---

#### <研修内容の活用について>

- 1 初任者研修と教職経験 10 年研修の基本研修に関する活用が圧倒的に高い。その他に、教育研究発表会、保育技術協議会に関する研修講座における活用が見られる。
- 2 当センターで研修した内容を活用していない理由として、参加する機会がない、参加したことがないことがあげられている。

#### <取り上げてほしい研修内容について>

- 1 「幼児期の終わりまでに育って欲しい姿」への要望が 55%と最も多く、保幼小接続との関わりから、実際の保育の中でその場面で育って欲しい姿につながっていくのか、具体的にイメージできる内容の研修が求められている。また、教育課程や指導計画と関連したものが多くあげられた。
- 2 H28 年度調査と同様に「指導と評価に生かす記録」「幼児期の特別支援教育」に関する研修の割合が高い。各市町村において就学指導・就学支援が一層重視されている中、幼稚園等の特別支援教育に対する理解が求められてきていることも背景として考えられる。また、支援を要する園児との関わり方だけでなく、その保護者との関わり方についてのニーズが非常に高い。今後、各種研修の中で「特別支援教育」に関する研修内容の充実にも努めていきたい。
- 3 「園内研修」については、教員の指導力の向上やカリキュラム・マネジメントによる幼児教育の充実を図るために効率のよい研修かつ充実した研修を行うための具体的な取り組みについて多くのニーズがあげられている。しかし、県内研修の時間の確保や勤務体制からくる園外研修への参加の難しさがあり、悩んでいる園が多いようである。

### 「支援」について

---

- 1 「教育相談」は、「すでに利用したまたは利用する予定である」「利用したいが時期は未定」合わせて 3.3%、「機会があれば利用したい」が 49.6%と半数近くが利用を考えている。また『どようび相談』は、「すでに利用したまたは利用する予定である」「利用したいが時期は未定」合わせて 1.6%、「機会があれば利用したい」が 33.6%であった。これらの結果から、幼稚園等においても相談ニーズはあると考えられる。

## 「研究」について

### <研究成果物の活用について>

- 1 平成 27 年度の研究成果物では、「親と子が共に育つ子育ての支援事例集」の活用率が 69.4%と非常に高い。幼稚園・認定こども園・保育所では子供に対する教育・保育とともに子育ての支援も重要事項として実施されていることから、保護者への子育ての支援、連携について具体的な実践を掲載している本事例集は、各園のニーズに合ったものとなり、高い活用率につながっているものと考えられる。
- 2 平成 26 年以前のものでは「支援が必要な用事の育ちあいを促す保育ガイド（平成 20 年度）」が活用されている。

### <研究成果物の入手方法について>

- 1 研究成果物の情報入手方法については、「岩手県教育研究発表会」と「研修資料」がどちらも 46.9%で主な入手方法になっている。次いで、「教育研究岩手」の 22.4%となっている。
- 2 センターWEBページからの入手は 10.2%と、他校種よりかなり低い数値ではあるが、28 年度の調査では 2%であったので、PC 普及率の上昇と共に、情報収集の手段が多様化していることが窺える。

### <教育体制（相談できる機関・団体の有無）について>

- 1 相談できる機関としては、市町村教育委員会が最も多く、次いで市町村の発達支援センターとなっている。一方、相談できる機関・団体がないと回答した園も 17.9%ある。
- 2 相談内容は、ほとんどが特別な支援を要する子どもへの援助、及びその保護者への対応というものであった。特別支援関係のニーズが高いことが伺える。市町村教育委員会への相談内容においては、緊急対応マニュアルに関わるものもあった。
- 3 相談内容で、日々の保育についての相談は皆無であった。現場の保育者の話を聞くと、日々の保育の質の向上に苦勞している様子が窺えるが、外部には相談していない。悩みつつも内部で処理している、あるいは外部には保育の質向上に関わるアドバイスを受けられる機関がないから初めから相談しようと考えていない、等の理由も考えられる。幼児教育センターや地域の幼児教育アドバイザーが存在すれば、そういった機関等に相談するのではないか。

### <近隣園との教育課程の共有について>

- 1 共有ありが 22.8%、なしが 74%と、圧倒的に共有は図られていない。共有していると回答した園は、市町村立がほとんどで、法人立はそれぞれ独自で進めているようである。

- 2 共有したものの活用については主に以下のとおりである。
- ・ 接続期カリキュラムの共同での作成
  - ・ 地区内での園同士の交流会
  - ・ 互いの保育の質向上のための合同の研修会
  - ・ 小学校も加えた連絡協議会での授業参観、保育参観の際の参考資料
  - ・ 指導案作成
  - ・ 自園の研究

### <スタートカリキュラムの共有について>

- 1 就学先の小学校との共有については、有りが 31.7%、なしが 65.9%と、共有されていない園が多い。
- 2 有りの場合の活用については、大別すると以下のようになる。
- ・ 教育課程等の見直しにつなげる  
就学前に経験させたいことの洗い出し、見通しをもった指導計画の作成及び指導案作成
  - ・ 小学校との連携につなげる  
小学校との交流、育てたい姿の共有
  - ・ 家庭との連携につなげる  
就学に当たって、共有したスタートカリキュラムをもとに保護者に情報提供

### <研究体制の工夫について>

- 1 工夫の仕方としては主に以下の 4 つが挙げられる。
- ・ 園内研修  
各園内の実態に合わせた理論研修や保育研究会
  - ・ 外部講師招聘  
研究内容や保育実践に関わる指導を、指導主事や外部講師に依頼
  - ・ 他園との研修会  
地区の保育協会内研修組織でのグループ研究  
公立保育園合同の研究会  
近隣園の保育士研究会
  - ・ 小学校との研修会  
近隣小学校との合同研修会  
園内研究会への小学校教員参加

### 「意見・要望」について

各園からの意見・要望に関してまとめると概ね以下のとおりである。

- ・ 研修の機会の拡充（午後開催）
- ・ 各地域での研修
- ・ 0～2歳児の保育に関する専門性
- ・ 保育所関係の研修の充実
- ・ 土曜日の研修会開催

**【小・中・高・特別支援学校】**

※P. 3、P. 4、P. 7、P. 17、P. 28、P. 29、P. 30、P. 31、P. 33 の表の割合は、下記の表の校種別回答校数及び回答合計数を基準とする。

	小学校	中学校	高等学校	特別支援学校	合計
回答校数	313	157	69	16	555

**【幼稚園】**

※P. 36、P. 38、P. 42、P. 44、P. 45、P. 46、P. 47 の表の割合は、下記の表の回答園数を基準とする。

	合計
回答園数	123

平成 30 年度

総合教育センターの研修・支援・研究業務の推進に関する調査結果

～現場に役立つ教育センターを目指して～



岩手県立総合教育センター 2018.12